

# シラバス(授業計画)

SYLLABUS

令和6年度



関西看護医療大学大学院  
看護学研究科

# 目 次

■カリキュラム表 .....	1
----------------	---

## ■シラバス

### 共通専門科目

看護理論 .....	6
研究方法論 .....	7
看護診断学 .....	8
看護教育論 .....	9
看護管理学 .....	10
看護政策論 .....	11
コンサルテーション論 .....	12

### 共通基礎科目

倫理学 .....	13
社会学 .....	14
臨床心理学 .....	15
保健統計学 .....	16

### 専門科目

#### 慢性看護学分野

慢性看護学特論Ⅰ .....	17
慢性看護学特論Ⅱ .....	18
慢性看護学演習Ⅰ .....	19
慢性看護学演習Ⅱ .....	21
慢性看護学セミナー .....	22
慢性看護学実習 .....	23

#### 地域看護学分野

地域看護学特論Ⅰ .....	24
地域看護学特論Ⅱ .....	25
地域看護学演習Ⅰ .....	26
地域看護学演習Ⅱ .....	27
地域看護学セミナー .....	28
地域看護学実習 .....	29

## 母性看護・助産学分野

母性看護・助産学特論Ⅰ	30
母性看護・助産学特論Ⅱ	31
母性看護・助産学演習Ⅰ	32
母性看護・助産学演習Ⅱ	33
母性看護・助産学セミナー	34
母性看護・助産学実習	35

## 高度実践助産師養成コース

生殖機能論（母子の基礎化学）	36
助産学概論	37
助産文化・国際論	38
助産教育論	39
母子家族論	40
母子保健行政論	41
助産診断・技術学特論Ⅰ（妊娠期）	42
助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）	43
助産診断・技術学特論Ⅱ	45
助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）	46
助産診断・技術学特論Ⅲ（産褥期・育児支援）	48
助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・育児支援）	49
地域母子保健	51
助産管理	52
助産学実習	53
助産管理実習	55
看護学特別研究	56



関西看護医療大学大学院カリキュラム

(平成29年～令和3年度生)

(看護学研究科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		卒業要件	年次配当				
			必修	選択		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	
共通専門科目	看護理論	1通	◎		必修6単位	2				
	研究方法論	1前	◎			2				
	看護診断学	1通	◎			2				
	看護教育論	1通		○		2				
	看護管理学	1通		○		2				
	看護政策論	1通		○		2				
	コンサルテーション論	1通		○	2					
共通基礎科目	倫理学	1通		○	選択4単位	2				
	社会学	1通		○		2				
	臨床心理学	1通		○		2				
	保健統計学	1通		○		2				
小計(共通科目)						2	20	0	0	
専門科目	慢性看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ	1通	◎	必修14単位 + 選択4単位 ※慢性分野	2				
		慢性看護学特論Ⅱ	1通	◎		2				
		慢性看護学演習Ⅰ	1通	◎		2				
		慢性看護学演習Ⅱ	1・2通	◎			4			
		慢性看護学セミナー	1・2通	◎			4			
		慢性看護学実習	☆ 1・2通			○	4			
	計						0	6	0	12
	地域看護学分野	地域看護学特論Ⅰ	1通	◎	必修14単位 + 選択4単位 ※地域分野	2				
		地域看護学特論Ⅱ	1通	◎		2				
		地域看護学演習Ⅰ	1通	◎		2				
		地域看護学演習Ⅱ	1・2通	◎			4			
		地域看護学セミナー	1・2通	◎			4			
		地域看護学実習	☆ 1・2通			○	4			
	計						0	6	0	12
母性看護・助産学分野	母性看護・助産学特論Ⅰ	1・2通	◎	必修14単位 + 選択4単位 ※母性助産分野	2					
	母性看護・助産学特論Ⅱ	1・2通	◎		2					
	母性看護・助産学演習Ⅰ	1・2通	◎		2					
	母性看護・助産学演習Ⅱ	1・2通	◎			4				
	母性看護・助産学セミナー	1・2通	◎			4				
	母性看護・助産学実習	☆ 1・2通			○	4				
	計						0	0	0	18
	高度実践看護職養成コース	生殖機能論	★ 1前	◎	必修10単位 ※母性助産分野	1				
		助産学概論	★ 1前	◎		1				
		助産文化・国際論	★ 1通	◎		1				
助産教育論		★ 1前	◎	1						
母子家族論		★ 1前	◎	1						
母子保健行政論		★ 1前	◎	1						
助産診断・技術学特論Ⅰ(妊娠期)		★ 1前	◎	1						
助産診断・技術学演習Ⅰ(妊娠期)		★ 1前	◎	2						
助産診断・技術学特論Ⅱ(分娩期)		★ 1通	◎			1				
計						8	2	0	0	
母性看護・助産学分野	高度実践看護職養成コース	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	★ 1通	◎	必修18単位 ※母性助産分野	2				
	助産診断・技術学特論Ⅲ(産褥期・育児支援)	★ 1通	◎	1						
	助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥期・育児支援)	★ 1通	◎	1						
	地域母子保健診断	★ 1・2通	◎			1				
	助産管理	★ 1・2通	◎			1				
	助産学実習	★ 1・2通	◎			11				
	助産管理実習	★ 2通	◎				1			
	計						0	4	0	14
看護学特別研究		1・2通	◎		必修6単位		6			
小計(専門科目)						8	18	0	56	
合計(46科目)						10	38	0	62	

学位又は称号	修士(看護学)
学位又は学科の分野	保健衛生学

## 大学院看護学研究科修了要件

修士(看護学)課程修了に必要な修得単位は30単位以上とする。

各分野とも共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上を修得するとともに、選択した専門分野に応じて、それぞれの専門分野の特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位を修得する。

また、教育者・研究者コースを選択した者にあつては、共通基礎科目にある「保健統計学(\*) 2単位」を必修選択する。高度専門看護職養成コースを選択した者(\*助産師国家試験資格修得コースは除く)にあつては、各専門分野の「実習(☆) 4単位」を30単位に加えて必修選択する。

母性看護・助産学分野の高度実践看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コースを選択した者にあつては、修了に必要な30単位以上と「助産師国家試験資格取得科目(★)」の計28単位を加えて計58単位以上を修得する。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

# 大学院カリキュラム

(令和4年～6年度生)

(看護学研究科)

区分	科目名	単位数	時間	履修要件	卒業要件	年次配当				
						1前	1後	2前	2後	
共通専門科目	看護理論	2	30		必修6単位＋ 選択4単位		◎			
	研究方法論	2	30			◎				
	看護診断学	2	30				◎			
	看護教育論	2	30				○			
	看護管理学	2	30				○			
	看護政策論	2	30				○			
	コンサルテーション論	2	30				○			
共通目基礎	倫理学	2	30				○			
	社会学	2	30				○			
	臨床心理学	2	30				○			
	保健統計学	2	30	*			○			
小計						2	20	0	0	
慢性看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ	2	30			必修14単位		◎		
	慢性看護学特論Ⅱ	2	30					◎		
	慢性看護学演習Ⅰ	2	60				◎			
	慢性看護学演習Ⅱ	4	120					◎		
	慢性看護学セミナー	4	120					◎		
	慢性看護学実習	4	120	☆				○		
	小計						0	6	0	12
地域看護学分野	地域看護学特論Ⅰ	2	30		必修14単位		◎			
	地域看護学特論Ⅱ	2	30				◎			
	地域看護学演習Ⅰ	2	60				◎			
	地域看護学演習Ⅱ	4	120					◎		
	地域看護学セミナー	4	120					◎		
	地域看護学実習	4	120	☆				○		
小計						0	6	0	12	
母性看護・助産学分野	母性看護・助産学特論Ⅰ	2	30		必修14単位		◎			
	母性看護・助産学特論Ⅱ	2	30				◎			
	母性看護・助産学演習Ⅰ	2	60				◎			
	母性看護・助産学演習Ⅱ	4	120				◎			
	母性看護・助産学セミナー	4	120				◎			
	母性看護・助産学実習	4	120	☆				○		
	小計						0	0	0	18
母性看護・助産学分野	生殖機能論	1	15	★	必修32単位		◎			
	助産学概論	1	15	★			◎			
	助産文化・国際論	1	15	★			◎			
	助産教育論	1	15	★			◎			
	母子家族論	1	15	★			◎			
	母子保健行政論	1	15	★			◎			
	助産診断・技術学特論Ⅰ(妊娠期)	1	30	★			◎			
	助産診断・技術学演習Ⅰ(妊娠期)	2	60	★			◎			
	助産診断・技術学特論Ⅱ(分娩期)	1	30	★			◎			
	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	2	60	★			◎			
	助産診断・技術学特論Ⅲ(産褥期・育児支援)	2	30	★			◎			
	助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥期・育児支援)	2	60	★			◎			
	地域母子保健	2	30	★				◎		
	助産管理	2	30	★				◎		
	助産学実習	11	495	★				◎		
	助産管理実習	1	45						◎	
	小計						0	16	0	16
看護学特別研究		6	180		必修6単位		◎			
小計						0	0	0	6	
セメスター別配当単位数計						2	48	0	64	

◎…必修科目、○…選択科目

\*…必修選択科目(教育者・研究者コース選択者)

☆…必修選択(高度専門看護職コース選択者 \*助産師国家試験資格取得コースは除く)

★…母性看護・助産学分野 高度専門看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コース選択者 修得科目

学位又は称号	修士(看護学)
学位又は学科の分野	保健衛生学

### 大学院看護学研究科修了要件

修士(看護学)課程修了に必要な修得単位は30単位以上とする。

各分野とも共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上を修得するとともに、選択した専門分野に応じて、それぞれの専門分野の特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位を修得する。

また、教育者・研究者コースを選択した者においては、共通基礎科目にある「保健統計学(\*)2単位」を必修選択する。高度専門看護職養成コースを選択した者(\*助産師国家試験資格取得コースは除く)においては、各専門分野の「実習(☆)4単位」を30単位に加えて必修選択する。

母性看護・助産学分野の高度実践看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コースを選択した者においては、修了に必要な30単位以上と「助産師国家試験資格取得科目(★)31単位」および本学が必要と認める「助産管理実習1単位」の計32単位を加えて合計62単位以上を修得する。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分



授業科目名 [英文表記]	看護理論 [Nursing Theory]	担当教員名	◎小平 京子、江川 隆子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ポリシー番号	1	ディプロマ・ポリシー番号	1、2、3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 看護理論家の著書の講読とその分析を通して、看護学の哲学・倫理・教育・実践の基礎となる看護理論について学修する。さらに看護介入等に関する諸理論について研究論文を通して学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論の意義と歴史の変遷について説明できる</li> <li>2. 看護理論の構造と構成要素および概念について説明できる</li> <li>3. 主な看護理論家の理論と理論分析の視点について述べるができる。</li> <li>4. 看護理論分析の具体的な方法を例を通して説明できる。</li> <li>5. 学生が選択した看護理論家の理論分析結果を説明できる</li> <li>6. 疾病予防行動や健康行動、慢性疾患患者の自己管理行動、ケア技術にかかわる中範囲理論とそれを活用した論文を講読し、説明できる</li> <li>7. 学生が選択した中範囲理論についての解説と適応例についてプレゼンテーションできる</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 外	目 標 時 間
第 1 回	看護理論の意義と歴史の変遷	【講義】(小平)	(準備学修内容) ①授業前後の提示資料・論文の予習・復習、課題レポートを作成、提出する  ②毎回の授業内に討議された内容と次への課題をその都度整理し記述する。  ③プレゼンテーションの準備は資料配布時期に合わせて作成できるように進める。プレゼンテーション前日までにハンドアウトを配布する。	4時間
第 2 回	看護理論の構造、構成要素および概念	【講義】(小平)		4時間
第 3 回	主な看護理論家の理論と理論分析の視点	【講義】(小平)		4時間
第 4 回	理論分析の例(ナイチンゲール看護論およびオレムセルフケア不足理論について)①	【講義】(小平)		8時間
第 5 回	理論分析の例(ナイチンゲール看護論およびオレムセルフケア不足理論について)②	【講義】(小平)		8時間
第 6 回	学生が選択した理論家のプレゼンテーション①	【講義】(小平)		
第 7 回	学生が選択した理論家のプレゼンテーション②	【講義】(小平)		
第 8 回	疾病予防行動や健康行動、慢性疾患患者の自己管理行動、ケア技術にかかわる中範囲理論①	【講義】(江川)		4時間
第 9 回	疾病予防行動や健康行動、慢性疾患患者の自己管理行動、ケア技術にかかわる中範囲理論②	【講義】(江川)		4時間
第 10 回	中範囲理論および中範囲理論を活用した研究論文の講読①	【講義】(江川)		12時間
第 11 回	中範囲理論および中範囲理論を活用した研究論文の講読②	【講義】(江川)		12時間
第 12 回	中範囲理論および中範囲理論を活用した研究論文の講読③	【講義】(江川)		
第 13 回	学生が選択した中範囲理論についての解説・適応例についてのプレゼンテーション①	【講義】(江川)		
第 14 回	学生が選択した中範囲理論についての解説・適応例についてのプレゼンテーション②	【講義】(江川)		
第 15 回	学生が選択した中範囲理論についての解説・適応例についてのプレゼンテーション③	【講義】(江川)		
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート(看護論・中範囲理論)60%、プレゼンテーションの内容等40%			
フィードバックの方法	課題のプレゼンテーションに対する随時のコメント、提出された課題レポートへのコメント			
他 の 授 業 と の 関 連	看護の基盤となる看護哲学を含む重要な科目です。研究や実践に直接・間接的に連動するので理論の目的を十分に理解することが重要です。			
テ キ ス ト	①アン・マリナー・トメイ、マーサ・レイラ・アリグット(2002)/都留伸子 監訳(2004)看護理論家とその業績 第3版、医学書院。 ②江川隆子 他(2014)中範囲理論を実践に活用する、看護技術1~12号、メヂカルフレンド社。 その他必要に応じて授業中に紹介します。			
参 考 図 書	各自が興味をもった各看護理論家の著書			
履修上の留意点	理論から自分の看護の考え方を築く手助けとなるよう学んでください。			
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時はk.kodaira@kki.ac.jpに連絡してください。			
実務経験のある教員	小平 京子(看護師)、江川 隆子(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	研究方法論 [Research Methodologies]	担当教員名	◎小平 京子、奥津 文子 神谷 千鶴、土井 香	
期 間	1年(前期)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>人間の健康に関する課題を科学的・体系的に解明するための看護研究方法論について、その意義、研究目的の明確化、方法論の選定、計画の立案、実施方法、結果の分析、考察に至る研究プロセスについて学修する。さらに、学生が選択した看護学分野における研究課題を明らかにし、研究計画を立案するための方法を研究論文の講読を通して学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における研究の意義と実践への応用の重要性を説明できる</li> <li>2. 研究目的の明確化から考察に至る研究プロセスと研究デザインについて説明できる</li> <li>3. 研究を進めるにあたり研究論文のクリティークの重要性と方法を説明できる</li> <li>4. 研究における倫理の重要性とその方法について説明できる</li> <li>5. 学生の研究課題について説明できる</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
第 1 回	看護における研究の意義と実践への応用【講義】(小平)	(準備学修内容)		4時間
第 2 回	臨床疑問を研究疑問にするには、研究のプロセスと研究デザイン(量的研究・質的研究)研究における文献検討の意義と方法【講義】(小平)	①授業前後の参考図書の予習、復習		4時間
第 3 回	研究倫理【講義】(土井)	②毎回の授業内に討議された内容と次への課題をその都度整理し記述する。		4時間
第 4 回	量的研究とは：その特性と研究対象【講義】(奥津)	③自己の臨床・研究課題に関する文献講読を継続して行い、研究課題を明確にする		20時間
第 5 回	調査研究・実験研究・介入研究【講義】(奥津)	④プレゼンテーション前日までにハンドアウトを配布する。		16時間
第 6 回	標本抽出と方法論(測定概念と方略)【講義】(奥津)			
第 7 回	データ分析方法【講義】(奥津)			
第 8 回	結果の分析・解釈方法と論文作成【講義】(奥津)			
第 9 回	論文のクリティークと活用(サブストラクション)①【講義】(神谷)			
第 10 回	論文のクリティークと活用(サブストラクション)②【講義】(神谷)			
第 11 回	質的研究の方法とその対象、研究プロセスと倫理的問題①【講義】(小平)			
第 12 回	データ収集：面接と参加観察法②【講義】(小平)			
第 13 回	データ分析方法と論文作成、真実性・確実性の確保③【講義】(小平)			
第 14 回	質的研究論文の講読とクリティーク④【講義】(小平)			
第 15 回	研究疑問のプレゼンテーション【講義】(小平)			4時間
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート(クリティーク)の内容50%、プレゼンテーションの内容50%			
フィードバックの 方 法	課題のプレゼンテーションに対する随時のコメント、提出された課題レポートへのコメント			
他 の 授 業 と の 関 連	看護の基盤となる看護哲学を含む重要な科目です。研究や実践に直接・間接的に連動するので理論の目的を十分に理解することが重要です。			
テ キ ス ト	D.F. ポーリット、C.T. バック(2004) / 近藤潤子 監訳(2010) 看護研究 原理と方法 第2版、医学書院。ホロウェイ、ウィラー(2002) / 野口美和子 監訳(2006) ナースのための質的研究入門、医学書院。坂下玲子 他(2021) 看護研究 系統看護学講座 別巻、医学書院。			
参 考 図 書	授業時その都度提示します			
履修上の留意点	授業内容と自分の研究課題を常に関連させて、研究の実践へと生かせるようにしてください。			
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時は k.kodaira@kki.ac.jp に連絡してください。			
実務経験のある教員	小平 京子(看護師)、奥津 文子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)、土井 香(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	看護診断学 [Nursing Diagnostics]	担当教員名	◎江川 隆子、笠岡 和子 神谷 千鶴	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1、3、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>高度先進医療および在宅医療における患者の看護上の問題を含め、看護診断の開発について文献を通して探究するとともに、学生個々の研究課題における主要な「概念」について、文献を通して探究し、概念分析を行う。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高度先進医療や在宅医療における看護上の問題を含む看護診断開発の必要性を文献検討を通して説明できる。</li> <li>2. 学生個々の研究課題にかかわる「現象」の概念分析を行いその結果をプレゼンテーションできる。</li> <li>3. プレゼンテーションおよびその内容に関するディスカッション結果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
第1.2回	各看護領域におけるクライアントの身体・心理・社会的な看護診断とその背景理論 【講義】(江川・笠岡)	テキストから、研究に関連する看護診断とその背景理論に関する内容を把握しておく。		毎回 4時間
第3.4回	看護診断とその介入方法論 【講義】(江川・笠岡)	研究のキー概念に関する文献を選択・検討し、概念分析手法のモデルを参考に文献から必要事項を読み取る。 プレゼンテーション夜のハンドアウトを参加者数準備すること。		合計60 時間
第5.6.7回	学生個々の研究の臨床疑問および研究疑問の確認と研究のキー概念の明確化 【講義】(江川・笠岡・神谷・院生)			
第8.9.10.11回	研究のキー概念およびその介入方法に関する文献検討と概念分析【講義・演習】(江川・笠岡・神谷・院生)			
第12.13.14.15回	研究のキー概念およびその介入に関する概念分析のプレゼンテーション/ディスカッションを行い、その結果をレポートにまとめる。 【講義・演習】(江川・笠岡・神谷・院生)			
学修評価の方法 基準(割合%)	プレゼンテーションの内容40%、課題レポート60%			
フィードバックの 方 法	プレゼンテーション内容およびレポート内容についてその都度検討し、研究につながる内容になるコメントを提示する。			
他 の 授 業 と の 関 連	研究方法論で学んだ研究課題のキーとなる概念を明らかにすることの重要性を実践を通して理解することになる。			
テ キ ス ト	・日本看護診断学会監訳(2012):NANDA-I看護診断定義と分類、医学書院。 ・中木高夫/川崎修一訳(2008):看護における理論構築の方法、医学書院。			
参 考 図 書	キー概念にかかわる文献等をその都度提示する。			
履修上の留意点	概念分析は、研究を行ううえで重要な知的作業であり、この分析を通して学生個々の研究に関わる現象を客観的に把握することができるため、十分な文献検討を行うこと。			
オフィスアワー	在室時は状況により調整し対応する。可能な限りメール(tegawa@kkiac.jp)であらかじめ予約連絡してください。			
実務経験のある教員	江川 隆子(看護師)、笠岡 和子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	看護教育論 [Nursing education theory]	担当教員名	◎奥津 文子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		○	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	2	ディプロマ・ ポリシー番号	1、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>看護教育制度と看護教育課程の変遷、看護カリキュラムの作成過程における教員の役割を学び、現行の看護教育の問題や課題について検討する。また、教授・学習過程における基本的な学習理論、教育指導の方策、教育評価の基礎的知識を修得する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1) 看護教育制度と看護教育課程の変遷について、説明できる。</p> <p>2) 現行の看護教育の問題や課題について、考えを述べることができる。</p> <p>3) 教授・学習過程における基本的な学習理論を活用し、学習指導計画・指導案が作成できる。</p> <p>4) 作成した学習指導計画・指導案に対する評価計画を立案できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
第 1 回	看護教育制度と看護教育課程の変遷Ⅰ	【講義】(奥津)	日本の昭和から令和に至る歴史、社会背景の変化を調べ、まとめてくる。	4時間
第 2 回	看護教育制度と看護教育課程の変遷Ⅱ	【講義】(奥津)	日本の昭和から令和に至る医療状況の変化を調べ、まとめてくる。	4時間
第 3 回	看護教育制度と看護教育課程の変遷Ⅲ	【講義】(奥津)	日本の昭和から令和に至る社会福祉の変化を調べ、まとめてくる。	4時間
第 4 回	現行の看護教育の問題や課題ⅠⅡ	【講義】(奥津)	看護教育の実態について調べ、意見をまとめてくる。	6.5時間
第 5 回	教授・学習過程における基本的な学習理論ⅠⅡ	【講義】(奥津)	興味にある学習理論を選び、活用方法について具体的に検討してくる。	6.5時間
第 6 回				
第 7 回	学習指導計画・指導案作成の基礎的知識	【講義】(奥津)	指導目標の接敵、指導内容の抽出、指導の順序性の検討、指導方法の検討、指導計画・指導案の作成	第8～11回 各5時間
第 8 回		【演習】(奥津)		
第 9 回		【演習】(奥津)		
第 10 回		【演習】(奥津)		
第 11 回	学習指導計画・指導案作成	【演習】(奥津)	プレゼンテーションの練習	3時間
第 12 回	学習指導計画・指導案のプレゼンテーション・ロールプレイ	【演習】(奥津)		
第 13 回	教育評価について	【講義】(奥津)	自身が今までに受けてきた評価の内容についてまとめる。	4時間
第 14 回	学習指導計画・指導案の評価内容・方法	【講義】(奥津)	評価内容・方法について調べる。	4時間
第 15 回	学習指導計画・指導案の評価の実際	【演習】(奥津)	学習指導計画・指導案の評価	4時間
学修評価の方法 基準(割合%)	レポート(80%)および、授業・演習の中での発言内容(20%)で評価する。			
フィードバックの 方 法	授業の中で適宜フィードバックする。			
他 の 授 業 と の 関 連	社会学、臨床心理学、慢性看護学演習ⅠⅡ			
テ キ ス ト	特に指定しない			
参 考 図 書	授業の中で適宜紹介する			
履修上の留意点	主体的に地震の意見が述べられるように、準備学修を行ってこること			
オフィスアワー	事前に連絡し、学生・教員双方が都合のいい日時を設定する。MAIL : a.okutsu@kki.ac.jp			
実務経験のある教員	奥津 文子(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	看護管理学 [Nursing Management]	担当教員名	◎箕浦 洋子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		○	
授 業 形 態	講義・演習		○ - 選択	
カリキュラム・ポリシー番号	1	ディプロマ・ポリシー番号	2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 看護管理の基本となる理論とその展開について学修し、具体的な管理プロセスに対する理解を深めるとともに、保健・医療・福祉に関する制度や組織運営など、質の高い看護サービス提供のために行うマネジメントについて学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 看護管理の歴史的背景と基本概念について説明できる。 2. 保健・医療・福祉に関する制度および保健医療福祉施設に携わる多職種との連携と調整について説明できる。 3. 看護サービスと質保証及び評価について説明できる。 4. リスクマネジメントと医療安全の取り組みについて説明できる。 5. 組織分析と組織変革のための戦略について説明できる。 6. 看護職のキャリアマネジメントについて説明できる。 7. 情報マネジメントの必要性とその方法について説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	看護管理学概論 【講義・演習 箕浦】 ・看護管理とは何か ・看護管理の歴史的背景		学修内容のリフレクション	4時間
第 2 回	日本の保健・医療・福祉の現状 1 【講義・演習 箕浦】 ・社会保障制度の現状と課題 ・診療報酬の現状		学修内容のリフレクション	4時間
第 3 回	日本の保健・医療・福祉の現状 2 【講義・演習 箕浦】 ・地域包括ケアシステムにおける多職種連携 ・地域におけるチーム医療		レポート課題作成	4時間
第 4 回	看護サービスと質保証 1 【講義・演習 箕浦】 ・看護サービスとは何か ・看護必要度とマネジメント ・看護の標準化(看護基準、クリニカルパス)		学修内容のリフレクション	4時間
第 5 回	看護サービスと質保証 2 【講義・演習 箕浦】 ・医療の質評価 ・看護の質評価		レポート課題作成	4時間
第 6 回	医療安全マネジメント 1 【講義・演習 箕浦】 ・安全管理システム ・安全文化の醸成		学修内容のリフレクション	4時間
第 7 回	医療安全マネジメント 2 【講義・演習 箕浦】 ・チーム医療と必要な機能 ・多職種の連携と協働		レポート課題作成	4時間
第 8 回	組織と組織行動 【講義・演習 箕浦】 ・組織とは何か ・組織行動のマネジメント		学修内容のリフレクション	4時間
第 9 回	組織分析と組織変革 【講義・演習 箕浦】 ・組織分化 ・組織の特徴と課題		学修内容のリフレクション	4時間
第 10 回	組織変革 【講義・演習 箕浦】 ・組織変革のための戦略マネジメント		学修内容のリフレクション	4時間
第 11 回	マネジメントに必要な知識と技術 1 【講義・演習 箕浦】 ・リーダーシップとマネジメント		学修内容のリフレクション	4時間
第 12 回	マネジメントに必要な知識と技術 2 【講義・演習 箕浦】 ・コンフリクトマネジメント ・パワーとエンパワメント		課題テーマのプレゼンテーション準備	4時間
第 13 回	看護職のキャリアマネジメント 【講義・演習 箕浦】 ・キャリアとキャリア形成 ・プレゼンテーション		学修内容のリフレクション	4時間
第 14 回	人材マネジメント 【講義・演習 箕浦】 ・キャリアディベロップメント ・人材フローマネジメント ・労働環境		レポート課題作成	4時間
第 15 回	情報マネジメント 【講義・演習 箕浦】 ・情報セキュリティ ・情報分析		レポート課題作詞	4時間
学修評価の方法基準(割合%)	レポート課題(第5回、7回、12回、14回、15回)(各15%)、ルーブリック評価基準を用いて評価します。第13回にプレゼンテーションを計画しています。テーマ、内容、資料のわかりやすさ、説明、質疑応答について各5点(25%)で評価します。			
フィードバックの方法	1週間程度を目途に提出レポートにコメントを行い返却します。			
他の授業との関連	積み重ねてきた学修や看護学実習の経験をもとに、多方面にわたって看護を捉え分析することで看護学を深めます。			
テ キ ス ト	看護管理学学習テキスト第3版 1巻～4巻			
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。			
履 修 上 の 留 意 点	看護管理は管理者だけが行うものではなく、看護ケアを提供するすべての人に必要な考えです。毎回講義とディスカッションを行い、看護を多方面から見つめることで新たな発見があると思います。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は<y.minoura@kki.ac.jp>に連絡ください。			
実務経験のある教員	箕浦 洋子(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	看護政策論 [Nursing Policy Theory]	担当教員名	◎伊木 智子、高鳥毛 敏雄、川崎 裕美	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位30時間		○	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	5	ディプロマ・ ポリシー番号	2、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>日本および欧米における看護を取り巻く医療政策の変遷と現状を分析し、政策決定過程で活用される理論やモデルを修得する。また看護に係る政策改変および決定過程への介入の必要性とその方法について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本と欧米における看護を取り巻く医療政策の変遷と現状について説明できる。</li> <li>2. 看護現場に影響を及ぼす政策の課題について説明できる。</li> <li>3. 看護政策過程について説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回 第 2 ~ 5 回 第 6 ~ 8 回 第 9 ~ 12 回 第 13 ~ 15 回	<p>看護を取り巻く医療政策の変遷と現状分析 【講義】(伊木)</p> <p>医療政策と制度 【講義】(高鳥毛)</p> <p>・日本および欧米における医療政策や医療制度の変遷</p> <p>看護政策の現状と課題 【講義】(伊木)</p> <p>・都道府県行政における医療、看護政策の現状と課題</p> <p>政策形成過程 【講義】(川崎)</p> <p>・政策決定プロセスの事例検討を通して、看護政策立案に必要なリファレンス能力、エビデンスの活用法およびマネジメント力、活用のための手法と評価法</p> <p>政策決定とその活用に係る理論や理論策定過程、およびその評価とまとめ</p> <p>【講義】(伊木)</p>		<p>事前学修： 指定した文献を抄読し、ポイントをまとめ、自らの考えをまとめておく。</p> <p>Google Class Room にアップロードされた講義資料を一読する。</p> <p>事後学修 ：講義内容について、授業資料を用いて復習する。 理解が不十分であれば、自己学習を行う。</p>	毎回 4時間
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート(50%)、プレゼンテーションの内容等(50%)			
フィードバックの 方 法	プレゼンテーション時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他 の 授 業 と の 関 連	社会学、臨床心理学、慢性看護学演習ⅠⅡ			
テ キ ス ト	その都度提示する。			
参 考 図 書	必要な文献はその都度提示する			
履修上の留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる。			
オフィスアワー	在室時は入室者等の状況で調整し対応、不在時は <t.tiki@kki.ac.jp> に連絡ください。			
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師)、高取毛 敏雄(公衆衛生学専門家)、川崎 裕美(保健師)			

授業科目名 [英文表記]	コンサルテーション論 [Consultation Theory]	担当教員名	◎菅 佐和子、大北 正三	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		○	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>高度専門看護職にとって、患者家族、他専門職種、地域住民等に対するコンサルテーションの必要性はますます高まっている。相手の理解を深め納得を得るための有効なコンサルテーションの基本姿勢、理論、技法を習得する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. コンサルテーションの基本概念、理論を学び、説明できる。 2. 事例分析とロールプレイを通してコンサルタントとしての対応技法を学び、実践できる。 3. リエゾン精神看護専門看護師の総合病院内での役割と機能について学び、説明できる</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	目標時間	
第 1 回	コンサルテーションの基本的概念および定義	<p>授業で学んだこと及び配付文献を復習し、実践に役立つよう咀嚼して身に着ける。</p> <p>復習によって更なる質問や感想が生じた場合、次回の授業で発言できるよう整理して文章家しておく。</p> <p>自分自身の臨床経験・実習経験を通して、授業で取り上げてほしい模擬事例を見つけておく。</p> <p>授業内容を復習し、次回講義で議論できるように学びや疑問を文章化しておく。</p> <p>授業内容を復習し、次回講義で議論できるように学びや疑問を文章化しておく。</p> <p>配布事例を予め読み込み、介入のプロセスや意図を整理しておく。</p> <p>配布事例を予め読み込み、介入のプロセスや意図を整理しておく。</p> <p>予め前回までの授業内容を復習し、専門看護師が行うコンサルテーションについて議論できるよう、学びや疑問を文章化しておく。</p>	<p>毎回 4時間</p>	
第 2 回	コンサルテーションのタイプとモデル			
第 3 回	コンサルテーションの基本となる文献を通しての事例理解①			
第 4 回	コンサルテーションの基本となる文献を通しての事例理解②			
第 5 回	コンサルテーションに不可欠なコミュニケーション能力を磨くーロールプレイによる①			
第 6 回	コンサルテーションに不可欠なコミュニケーション能力を磨くーロールプレイによる②			
第 7 回	具体的なコンサルテーションの方針と介入方法のポイントを学ぶ①			
第 8 回	具体的なコンサルテーションの方針と介入方法のポイントを学ぶ②			
第 9 回	受講生が、模擬事例を素材にコンサルテーションの方針を立て、具体的な介入方法を提示する①			
第 10 回	受講生が、模擬事例を素材にコンサルテーションの方針を立て、具体的な介入方法を提示する②			
第 11 回	総合病院におけるコンサルタントとしてのリエゾン精神看護専門看護師の位置づけと存在意義			
第 12 回	総合病院におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割			
第 13 回	リエゾン精神看護専門看護師の実践活動例を知る①			
第 14 回	リエゾン精神看護専門看護師の実践活動例を知る②			
第 15 回	コンサルテーションについての本質的理解を深める			
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート60%、プレゼンテーションの内容等40%			
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、質問・感想等を提出してもらい、次回、それについて質疑応答する			
他の授業との関連	可能であれば、過去に「臨床心理学」等の講義を受講した経験があることが望ましい。			
テ キ ス ト	指定のテキストはなし。担当教員が本授業のために作成した資料を事前に配布する。			
参 考 図 書	授業中に適宜紹介する。			
履修上の留意点	従来の臨床経験・実習経験等を通して、具体的な場面を想起しながら探求する姿勢を望む。			
オフィスアワー	担当教員のメールアドレスと交信可能時間帯を開示し、適宜対応する。			
実務経験のある教員	菅 佐和子(臨床心理士)、大北 正三(リエゾン精神看護専門看護師)			

授業科目名 [英文表記]	倫理学 [Ethics]	担当教員名	◎山本 道雄、梶山 紀子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		○	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1-③、2-①②	ディプロマ・ ポリシー番号	① ②	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 看護倫理の大前提である現代バイオエシックスの成立背景とその基本的思考を学習する。さらに主要な規範倫理思想の幾つかについて、現代バイオエシックスとの関わりを念頭におきながら、歴史のおよび理論的に学習をする。</p> <p>[学修目標] 1 生命倫理学の重要な概念が倫理学の基礎概念とどのような関係にあるか、説明できるようになる。 2 現代生命倫理学の重要なテーマ(例えば終末期医療)がどのような歴史的背景において成立したのか、説明できるようになる。 3 メディア等で取り上げられ生命倫理的問題(例えば医師による自殺補助事件など)の性格を正確に説明できるようになる。 4 臨床の場での現実的な問題の性格を冷静に説明できるようになる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	第1回～第5回		現代バイオエシックスの成立をニュルンベルク綱領から「医療倫理の4原則」成立までたどる。	毎回 4時間
第 2 回	現代バイオエシックスの成立をニュルンベルク綱領から「医療倫理の4原則」成立までたどる。			
第 3 回				
第 4 回			現代バイオエシックスと規範倫理学諸学説について	
第 5 回	第6回～第10回			
第 6 回	現代バイオエシックスの諸学説について			
第 7 回			臨床看護における倫理的課題や倫理的判断について、事前に提出された事例を通して分析考察する。患者と家族に寄り添い看護を主体的に実践する中で、看護管理者としての倫理的判断と部下の倫理観の育成についても考察する。	
第 8 回	第11回～第15回			
第 9 回	臨床におけるさまざまな倫理的判断の問題性、妥当性を患者、家族、看護者の複合的視野のもとで吟味検証する。			
第 10 回				
第 11 回				
第 12 回			臨床看護における倫理的課題や倫理的判断について、事前に提出された事例を通して分析考察する。患者と家族に寄り添い看護を主体的に実践する中で、看護管理者としての倫理的判断と部下の倫理観の育成についても考察する。	
第 13 回	臨床におけるさまざまな倫理的判断の問題性、妥当性を患者、家族、看護者の複合的視野のもとで吟味検証する。			
第 14 回				
第 15 回				
学修評価の方法 基準(割合%)	出席、授業中の態度等で30%、期末のレポートで70%の評価。			
フィードバックの方法	適宜小レポートを提出してもらい、理解度等を判定する。			
他の授業との関連	特になし。			
テ キ ス ト	講義ノートを配布してテキストに代える。			
参 考 図 書	適宜紹介			
履修上の留意点	特になし			
オフィスアワー				
実務経験のある教員	山本 道雄(哲学)、梶山 紀子(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	社会学 [Sociology]	担当教員名	◎西村 由実子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		○	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>デュルケム、マックス・ウェーバー、パーソンズなどの古典的な社会学の諸理論と社会調査法の基礎を学んだ上で「医療社会学」の歴史的展開を鑑み、保健医療分野における医療化、病人役割、病気行動、医療者-患者関係等のテーマを学ぶ。さらに、家族と国際社会における諸課題を取り上げ、今日の保健医療に関連する多様な課題を社会的に学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基礎概念を説明できる</li> <li>2. 医療社会学、家族社会学、国際社会学が扱うテーマと視座を理解し説明できる</li> <li>3. 自分の研究課題について、社会的視点をふまえた問題整理と問題提起ができる</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	目標時間	
第 1 回	ガイダンス/パラグラフ・ライティングの方法	パラグラフを書いてみる	2時間	
第 2 回	社会学の基礎概念・理論と方法	主要概念を説明する	2時間	
第 3 回	社会調査法(1) 参与観察とフィールドノーツ	参与観察をやってみる	2時間	
第 4 回	社会調査法(2) PICO 構文で研究疑問を作る	素朴な疑問を構造化する	2時間	
第 5 回	社会調査法(3) 医学的研究デザインの特徴	研究デザイン総覧表を埋める	2時間	
第 6 回	社会調査法(4) 交絡制御法、準実験的デザイン	バイアスと制御方法を整理する	2時間	
第 7 回	「医療社会学」の歴史と“医療化”概念	医療化と脱医療化の事例をあげる	2時間	
第 8 回	病人役割と病気行動: パーソンズ、フリードソン	諸行動理論と構成概念をまとめる	2時間	
第 9 回	医療者-患者関係: エマニュエルの4モデル	「審議モデル」で説明する	2時間	
第 10 回	「家族社会学」の推移: 近代家族、イエ制度	世界と日本の家族研究を比較する	2時間	
第 11 回	家族の形態と機能: 人口構造の変化	家族の機能と法制度を説明する	2時間	
第 12 回	ジェンダーとセクシュアリティ: 性の多様性	多様性と自身を知る [JIHP 尺度]	2時間	
第 13 回	「国際社会学」 国民国家とグローバル化社会	現在の『想像の共同体』を想像する	2時間	
第 14 回	人口問題と地球規模諸課題: SRHR の新定義	プラネタリーヘルスの視座をもつ	2時間	
第 15 回	各自の課題レポート発表とまとめ	各自の課題を発表する	32時間	
学修評価の方法 基準(割合%)	ブックレポート2つ(40%)、自分の課題発表(25%)、自分の課題レポート(25%)、授業・討論への参加(10%)			
フィードバックの方法	ブックレポートと課題レポートは、初回で説明するパラグラフ・ライティングの方法にのっとって書きましょう。書き方と内容について点数とコメントをつけて返却します。			
他の授業との関連				
テ キ ス ト	特定のテキストは指定しません。ブックレポートと講義内容のリーディング・リストは初回ガイダンスで配布します。			
参 考 図 書	<p>勝又正直「ナースのための社会学入門」医学書院</p> <p>野田直人「小論文・レポートの書き方-パラグラフ・ライティングとアウトラインを鍛える演習帳」人の森</p> <p>*この2冊は読みやすいのでお勧めです。</p>			
履修上の留意点	授業で学ぶ理論や方法、テーマをふまえて、各自が取り組みたい課題についての発表とレポート作成を行います。「社会的視点からの考察」を自分の研究の一助としてください。			
オフィスアワー	水曜日 12:00 ~ 15:00、意見や相談はメール y.nishimura@kki.ac.jp でいつでも受けます。			
実務経験のある教員				

授業科目名 [英文表記]	臨床心理学 [Clinical Psychology]	担当教員名	◎菅 佐和子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位30時間		○	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] すべての人間は「こころ」を有しているため、医療・看護領域でも「こころ」の問題に対する理解とケアが不可欠である。「こころ」の問題には不変的なものもあれば、時代や社会の影響でクローズアップされるものもある。それらに関する理解を深め、具体的な心理的ケアの在り方について事例を基にしながら探求する。</p> <p>[学修目標] ①臨床心理学の基礎的理論や知見を学び、それを説明できる。 ②人間の発達段階ごとの課題を理解し、それを説明できる。 ③心理的ケアの出発点としての「見立て」を理解し、実践できる。 ④心理的ケアの基本的技術であるカウンセリングについて学び、実践できる。 ⑤看護カウンセリングについて理解し、ポイントを押さえて実践できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第1回	臨床心理学とはどのような学問分野であるのか		<p>心理的諸問題、心理的ケアについては、誰もが自分の生活経験を通して、何らかの関心や問題意識を有しているはずである。それは、人それぞれであるが、あらためて視野を広げて人間理解を深めるきっかけになってほしいと願っている。</p> <p>自分を見つめ直すことは、時には苦痛を伴うことでもあるが、それが、高度専門看護師としての「糧」となると信じている。</p> <p>また、多忙な生活の中ではあるが、優れた文学、演劇、映画等に触れてほしい。</p>	<p>毎回 4時間</p>
第2回	医療・看護の現場で出会う心理的諸問題の理解			
第3回	発達段階ごとの「こころ」の理解①乳児期・幼児期の事例 ---「愛着」をめぐる問題など			
第4回	発達段階ごとの「こころ」の理解②児童期・思春期の事例 ----「発達障害」、虐待、イジメ、不登校など			
第5回	発達段階ごとの「こころ」の理解③青年期の事例 ---- 将来の生き方をめぐる葛藤など			
第6回	発達段階ごとの「こころ」の理解④成人期の事例 ---- 家庭と職場のストレス、うつ状態など			
第7回	発達段階ごとの「こころ」の理解⑤高齢期の事例 ---- 経済的不安、健康不安、孤独感など			
第8回	心理的支援の出発点としての「見立て」			
第9回	心理的支援に重要なコミュニケーション能力			
第10回	カウンセリングの基礎的技法①紙の上での応答練習			
第11回	カウンセリングの基礎的技法②ロールプレイ --- 共感によるレポートの形成			
第12回	カウンセリングの基本的技法③ロールプレイ ---- 重要な話に焦点を合わせる			
第13回	カウンセリングの基本的技法④ロールプレイ ----- 受け容れやすい提案の仕方			
第14回	看護カウンセリングの特徴と実践のポイント			
第15回	チーム医療における職種間連携の要の位置に立つ看護師の役割。			
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート60%、プレゼンテーションの内容等40%			
フィードバックの 方 法	毎回の授業終了時に、質問・感想等を提出してもらい、次回、それについて解説する。			
他 の 授 業 と の 関 連	もし「コンサルテーション論」も受講される場合は、先に「臨床心理学」を受講されることを希望する。「臨床心理学」の知見を基に「コンサルテーション」を学んでいただきたい。			
テ キ ス ト	指定のテキストはなし。担当教員が作成した資料を事前および授業中に配布する。			
参 考 図 書	広瀬寛子著「看護カウンセリング」第2版 医学書院			
履修上の留意点	日常生活においても、心の通い合うコミュニケーションに意識を向けていただきたい。			
オフィスアワー	教員のメールアドレスと交信可能時間帯を開示し、適宜対応する。			
実務経験のある教員	菅 佐和子(臨床心理士)			

授業科目名 [英文表記]	保健統計学 [Health statistics]	担当教員名	◎高見 栄喜、古川 秀敏	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		○	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>医療や健康に関する統計的理解や記述分析能力を高め、その影響要因や関連因子等の観点から、学生の根拠に基づいた公衆衛生看護活動や、統計調査を内容に含む研究論文を作成できる能力を醸成する。また基本的な統計や情報処理に関する知識や技能について、実際のデータを用いSPSSを使用して、その解析手法を実践し理解を深め、結果の解釈や仮説の検証、さらに応用的な統計解析の活用法を修得する。また、高度な統計解析手法については、解析技術を有する専門家から修得する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例や仮説から独立変数と従属変数に区分でき、適切な検定法(各パラメトリック・ノンパラメトリック検定)や、多変量解析(重回帰分析・ロジスティック回帰分析)を選択できる。</li> <li>2. 研究仮説に対するSPSSでのデータ解析方法を理解して実践でき、分析結果を図表にて視覚的に分かりやすく記述できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	統計学の基本事項の復習と確認	【講義】(高見)	講義内容・資料の復習	4時間
第 2 回	SPSSを用いた演習の基礎と実践	【講義】(高見)	講義内容・資料の復習	4時間
第 3 回	2群の比較 パラメトリック検定	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 4 回	2群の比較 ノンパラメトリック検定	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 5 回	ピアソン・スピアマン相関分析、カイ二乗検定	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 6 回	3群の比較 パラメトリック検定(1要因)	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 7 回	3群の比較 パラメトリック検定(2要因)	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 8 回	3群の比較 ノンパラメトリック検定	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 9 回	検定結果の視覚化(グラフの作成)	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 10 回	多変量解析の基礎と前提知識の確認	【講義】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 11 回	多変量解析 重回帰分析	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 12 回	多変量解析 ロジスティック回帰分析	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 13 回	多変量解析 臨床データを用いた応用例	【演習】(高見)	演習内容・資料の復習	4時間
第 14 回	各種検定法と多変量解析の確認演習テスト	【演習】(高見)	確認演習テストの学修	4時間
第 15 回	統計検定法と多変量解析の重要ポイント	【講義】(古川)	演習内容・資料の復習	4時間
学修評価の方法 基準(割合%)	確認演習テスト・講義課題(70%)、ディスカッションやプレゼンテーションの内容(30%)を総合的に評価する。			
フィードバックの方法	講義課題・演習確認テスト、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをします。			
他 の 授 業 と の 関 連	「研究方法論」や、自身の修士論文作成に不可欠な研究仮説を設定し、その研究目的に相応しい統計解析を正しく選択・実行し、結果を導けるスキルを向上させてください。			
テ キ ス ト	講義に必要なテキストや文献等は、その都度指示する。			
参 考 図 書	必要なテキストや文献等は、その都度指示する。			
履 修 上 の 留 意 点	エクセルなどのアプリケーションソフトウェアの操作が慣れていない場合は、事前に申し出てください。実際に、SPSSを用いた統計分析の演習を多く取り入れ、最後に演習課題を実施します。			
オ フ ィ ス ア ウ ー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< h.takami@kki.ac.jp >に連絡ください。			
実務経験のある教員	古川 秀敏(看護師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	慢性看護学特論 I [Advanced Chronic Nursing I]	担 当 教 員 名	◎小平 京子、神谷 千鶴 下舞 紀美代	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 30 時 間		●	
授 業 形 態	講 義		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>慢性病をもつ人を様々な健康状態の変化において包括的に理解するとともに、看護援助や看護技術の開発に必要な慢性病に関する主要概念と理論および介入に関する理論やモデルについて研究論文を通して学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慢性病患者を包括的に理解するための方法論とその分析方法を説明することができる。</li> <li>慢性病患者（主に腎不全）の理解と看護介入に関する理論について説明することができる。</li> <li>慢性病患者の生理、心理、社会的影響および心理・社会的影響に関する理論を説明することができる。</li> </ul>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間
第 1 回	慢性病患者（個人）を包括的に理解するための理論・方法論とその分析方法（ライフヒストリー・発達理論・フィジカルアセスメント）【講義】（小平）		個人をより深く理解するための第1回から5回にかけての授業は、各分野共通科目。用いられる用語や技術等について授業前後に学習を行うこと。	12 時間
第 2 回	ライフヒストリーとは 【講義】（小平）			
第 3 回	ライフヒストリーの分析方法 【講義】（小平）			
第 4 回	ライフヒストリー法を用いた慢性疾患をもつ人に関する研究論文講読とクリティーク① 【講義】（小平）			8 時間
第 5 回	ライフヒストリー法を用いた慢性疾患をもつ人に関する研究論文講読とクリティーク② 【講義】（小平）			
第 6 回	慢性病患者（主に腎不全患者）の看護介入に関わる主要モデルと関連する諸理論① 【講義】（神谷）			
第 7 回	慢性病患者（主に腎不全患者）の看護介入に関わる主要モデルと関連する諸理論② 【講義】（神谷）			12 時間
第 8 回	慢性病患者（主に腎不全患者）の看護介入に関わる主要モデルと関連する諸理論③ 【講義】（神谷）			
第 9 回	モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク① 【講義】（神谷）			
第 10 回	モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク② 【講義】（神谷）			12 時間
第 11 回	モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク③ 【講義】（神谷）			
第 12 回	モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク 【講義】（小平）			
第 13 回	モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク 【講義】（小平）			4 時間
第 14 回	理論：不安および死の不安 【講義】（下舞）			
第 15 回	・不安および死の不安に関する研究論文の講読 【講義】（下舞）			
学修評価の方法 基準（割合）	課題レポート60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等40%			
フィードバックの方法	課題のプレゼンテーションに対する随時のコメント、提出された課題レポートへのコメント			
他 の 授 業 と の 関 連	慢性病をもつ人の身体的・心理的・社会的影響やその特性に関する理論や研究論文は、慢性病をもつ人の深い理解につながるため、研究対象者が慢性病をもつ人の場合、より深く理解したうえで研究に取り組むことができる。			
テ キ ス ト	授業の都度必要に応じて提示する。			
参 考 図 書	授業の都度必要に応じて提示する。			
履 修 上 の 留 意 点	方法は文献講読。各自テーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえでクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。各自使用する文献は1週間前に配布する。プレゼンテーション後取りあげたテーマについてレポートを作成する。			
オ フ ィ ス ア ワ ー	在室時は調整し対応します。不在時は k.kodaira@kki.ac.jp に連絡してください。			
実務経験のある教員	小平 京子（看護師）、神谷 千鶴（看護師）、下舞 紀美代（看護師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	慢性看護学特論Ⅱ [Advanced Chronic Nursing Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎ 江川 隆子、小平 京子	
期 間	1 年 ( 通 年 )	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 30 時 間		●	
授 業 形 態	講 義		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - 1、3、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>慢性病をもつ人やその家族の看護上の問題 ( 看護診断を含む ) に対する看護治療および看護ケアの実践のための教育システムを開発するための諸理論を学修する。さらに、それらの看護に係る患者教育および看護者の教育システムの開発に必要な組織改革と開発のために、組織分析・システム分析に関する主要概念と諸理論について研究論文を通して学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慢性病をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論を説明できる</li> <li>慢性病をもつ人の家族に関する主要概念と諸理論を研究論文を通して説明できる</li> <li>所属する組織や実習先の組織 / システムに関する改善や改革の必要性について説明できる</li> </ul>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間
第 1 回	慢性病をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論 【講義】(江川・小平)		各授業の前後に提示された資料に関する予習・復習を行う。	毎 回 4 時 間  合 計 60 時 間
第 2 回	慢性病をもつ人の家族にかかわる主要概念と諸理論① 【講義】(江川)		ディスカッションされた内容について、その内容と自分の考えを記述し、まとめておく。	
第 3 回	慢性病をもつ人の家族にかかわる主要概念と諸理論② 【講義】(江川)			
第 4 回	家族に関する理論と分析方法および文献を用いた家族分析① 【講義】(江川)			
第 5 回	家族に関する理論と分析方法および文献を用いた家族分析② 【講義】(江川)			
第 6 回	組織・システム分析の視点と方法 ①組織とは ②システム 【講義】(小平)			
第 7 回	John P. Kotter の組織分析の視点：変革を推進するための 8 段階の分析プロセス 【講義】(小平)		レポートの概説に用いるハンドアウトを準備する (A4 版 1 枚、パワーポイントでの概説も可)	
第 8 回	プロセス① 1. 危機意識を高める 2. 変革推進のための連帯の構築 3. ビジョンと戦略を生み出す 【講義】(小平)			
第 9 回	プロセス② 4. 変革のためのビジョンの周知徹底 5. 組織員の自発を促す 6. 短期的成果の実現 【講義】(小平)			
第 10 回	プロセス③ 7. 成果を生かし更なる変革の推進を図る 8. 新しい方法を職場文化に反映させる 【講義】(小平)			
第 11 回	組織改革に関する研究論文の講読と検討① 【講義】(小平)			
第 12 回	組織改革に関する研究論文の講読と検討② 【講義】(小平)			
第 13 回	組織改革に関する研究論文の講読と検討③ 【講義】(小平)			
第 14 回	家族・組織・システムの分析の実際 (院生のプレゼンテーション) ① 【講義】(小平)			
第 15 回	家族・組織・システムの分析の実際 (院生のプレゼンテーション) ② 【講義】(小平)			
学修評価の方法 基準 (割合 %)	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%			
フィードバックの方法	レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。			
他 の 授 業 と の 関 連	研究において家族・組織・システムの分析・改善・改革に関するテーマを選択する際の基礎的な学修内容となる。			
テ キ ス ト	開講時提示する。			
参 考 図 書	John P. Kotter(1996)/ 梅津祐良 訳 (2002): 企業変革力、日経 BP 社. Spencer Johnson(1998)/ 門田美鈴 訳 (2000): チーズはどこへ消えた?、扶桑社. John P. Kotter、Holger Rathgeber(2006)/ 藤原和博 訳 (2007): カモメになったペンギン			
履 修 上 の 留 意 点	方法は文献講読。各自取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティック所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。			
オ フ ィ ス ア ウ ー	在室時は調整し対応します。不在時は t.egawa@kki.ac.jp に連絡してください。			
実務経験のある教員	江川 隆子 (看護師)、小平 京子 (看護師)			

授業科目名 [英文表記]	慢性看護学演習 I [Chronic Nursing Exercise I]	担当教員名	◎小平 京子、江川 隆子 神谷 千鶴	
期間	1年(通年)	履修学年	1	2
単位数・時間	2単位・60時間		●	
授業形態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ポリシー番号	1	ディプロマ・ポリシー番号	1、3、4	
授業の概要 学修目標	<p>[授業の概要] 慢性看護学特論 I をふまえ、慢性病をもつ人およびその家族の行動や反応に関する諸理論や主要概念の分析とその方法について、学生個々の研究課題にそって研究論文を通して探求する。</p> <p>[学修目標] ・慢性病をもつ人のアセスメント方法およびその分析に係る諸理論を説明できる ・慢性病をもつ人の行動や反応に関する概念分析とその方法を説明できる ・慢性病をもつ人、特にその家族に関するアセスメント方法およびその分析に関する諸理論と方法を説明できる。</p>			
授業回数	授業の内容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	慢性病をもつ人のアセスメント方法およびその分析に係る諸理論と技術 ・Erikson の発達理論 【講義】(小平)		各授業の前後に提示された資料・文献に関する予習・復習を行う。 ディスカッションされた内容について、その都度その内容と自分の考えを記述する。	2時間
第 2 回	・Levinson のライフサイクルの心理学 【講義】(小平)			
第 3 回	フィジカルアセスメントの技術と評価方法① 【講義】(小平)			5時間
第 4 回	フィジカルアセスメント技術①例 糖尿病患者の FA 【講義・演習】(小平)			
第 5 回	フィジカルアセスメント技術②例 腎不全患者の FA 【講義・演習】(小平)			
第 6 回	フィジカルアセスメント結果の評価① 糖尿病患者の FA 【講義・演習】(小平)			
第 7 回	フィジカルアセスメント技術②例 腎不全患者の FA 【講義・演習】(小平)			
第 8 回	ナラティブアプローチの方法と分析 ナラティブアプローチの具体的な方法① 【講義】(小平)			4時間
第 9 回	ナラティブアプローチの方法と分析 ナラティブアプローチの具体的な方法② 【講義】(小平)			
第 10 回	ナラティブアプローチを用いた研究論文の講読とクリティーク① 【講義】(小平)			
第 11 回	ナラティブアプローチを用いた研究論文の講読とクリティーク② 【講義】(小平)			
第 12 回	学生の研究課題にかかわるナラティブアプローチや発達理論、フィジカルアセスメントに関する研究論文の講読とクリティーク① 【講義・演習】(小平)			4時間
第 13 回	学生の研究課題にかかわるナラティブアプローチや発達理論、フィジカルアセスメントに関する研究論文の講読とクリティーク② 【講義】(小平)			
第 14 回	学生の研究課題にかかわるナラティブアプローチや発達理論、フィジカルアセスメントに関する研究論文の講読とクリティーク③ 【講義・演習】(小平)			
第 15 回	学生の研究課題にかかわるナラティブアプローチや発達理論、フィジカルアセスメントに関する研究論文の講読とクリティーク④ 【講義・演習】(小平)			
第 16 回	慢性病をもつ人の行動や反応に関する諸理論それらを用いた分析方法 自己効力理論① 【講義】(神谷)			2時間
第 17 回	慢性病をもつ人の行動や反応に関する諸理論それらを用いた分析方法 自己効力理論② 【講義】(神谷)			
第 18 回	慢性病をもつ人の行動や反応に関する諸理論それらを用いた分析方法 保健信念モデル① 他 【講義】(神谷)			2時間
第 19 回	慢性病をもつ人の行動や反応に関する諸理論それらを用いた分析方法 保健信念モデル② 他 【講義】(神谷)			
第 20 回	慢性病およびターミナル期の看護に関する研究論文レビューとクリティーク① 【講義】(神谷)			6時間
第 21 回	慢性病およびターミナル期の看護に関する研究論文レビューとクリティーク② 【講義】(神谷)			

第 22 回	慢性病およびターミナル期の看護に関する研究論文レビューとクリティーク③ 【講義】(神谷)	レポートは指定の日時までにメール、または手渡しで提出できるよう準備する。	5 時間
第 23 回	慢性病およびターミナル期の看護に関する研究論文レビューとクリティーク④ 【講義】(神谷)		
第 24 回	慢性病およびターミナル期の看護に関する研究論文レビューとクリティーク⑤ 【講義】(神谷)		
第 25 回	慢性病およびターミナル期の看護に関する研究論文レビューとクリティーク⑥ 【講義】(神谷)		
第 26 回	慢性病をもつ人とその家族に関するアセスメント方法およびその分析に関する諸理論と方法① ・家族の定義と構造と機能 【講義】(江川)		
第 27 回	慢性病をもつ人とその家族に関するアセスメント方法およびその分析に関する諸理論と方法② ・家族の定義と構造と機能 【講義】(江川)		
第 28 回	・分析のための理論：フロイドの精神分析理論レビンソンのライフサイクルの心理学 他 【講義】(江川)		
第 29 回	・分析方法：家族家系図(ファミリーツリー)・ミニューチンの家族構造図 他 【講義】(江川)		
第 30 回	家族のアセスメント方法 ・分析例「the Scarlet Letter」 ・慢性病をもつ人の家族に焦点を当てた文献レビューとクリティーク 【講義】(江川)		
学修評価の方法基準(割合%)	課題レポート 60%(対象とした人のライフストーリーの分析、フィジカルアセスメント結果)、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%		
フィードバックの方法	レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。		
他の授業との関連	慢性看護学特論 I の授業内容を踏まえ、学生個々の研究課題にかかわる課題をより具体的に把握する機会となる。		
テキスト	家族理論に関するテキストをその都度提示する。		
参考図書	各授業の都度提示する。		
履修上の留意点	各自研究で取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティーク所見を述べる(30分)。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。		
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時は k.kodaira@kki.ac.jp に連絡してください。		
実務経験のある教員	小平 京子(看護師)、江川 隆子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)		

授業科目名 [英文表記]	慢性看護学演習Ⅱ	担当教員名	◎小平 京子、神谷 千鶴	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	4単位・120時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>慢性看護学特論Ⅱをふまえ、慢性病をもつ人の看護上の問題(看護診断を含む)に対する看護治療および看護ケアの実践のための教育システムの具体的な開発過程について学修する。さらにそれらの人々の療養生活の質の向上のための組織改革やシステム改革の開発過程について研究論文を通して学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性病(糖尿病、がん、心不全、脳血管疾患後遺症をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論を説明できる。</li> <li>慢性病(主に腎不全患者)に対する組織改革や患者教育システム、看護師の教育システムの開発過程について説明できる。</li> <li>実施計画を立案し実践、評価できる。</li> <li>学会参加を通して慢性看護学分野の研究動向と学生の研究分野に関する研究が把握できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第1.2.3.4.5.6.7.8. 9.10回	慢性病(糖尿病、がん、心不全、脳血管疾患後遺症をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論 ①糖尿病患者の教育システム(退院指導を含む)および看護者の教育システムに関する組織分析システム分析に関する文献講読とクリティーク 【講義・演習】(小平・院生)		配布された文献に関する事前・事後学修を行う。	10時間
第11.12.13.14.15回 第16.17.18.19.20. 21.22.23.24.25. 26.27.28.29.30回	②参加観察・インタビューによる組織システム分析の計画立案と検討 【講義・演習】(小平・院生) ③実践と実践結果のプレゼンテーションと検討【講義・演習】(小平・院生)		上記に関しての新たな理解や発見などについて自分の考えも含めその都度まとめ記述していく。	5時間 15時間
第31.32.33回	慢性病(主に腎不全患者)に対する組織改革や患者教育システム、看護師の教育システムの開発過程 ①透析患者のカンジャキョ育システムに関する文献講読とクリティーク 【講義・演習】(神谷・院生)		使用文献は、1週間前に配布する。 概説に用いるハンドアウトを準備する	25時間
第34.35.36.37回 第38.39.40回 第41.42.43回 第44.45.46回 第47.48.49.50.51. 52.53.54.55回	②自己効力理論、保健信念モデルを用いた患者のアセスメント方法と教育計画の立案 【講義・演習】(神谷・院生) ③アセスメントおよび教育計画結果のプレゼンテーションと検討 【講義・演習】(神谷・院生) ④患者教育計画の立案 ・具体的な患者を想定し、教育内容と方法について検討する 【講義・演習】(神谷・院生)		(A4版1枚、パワーポイントでの概説も可能) 患者教育およびフットケア研修に関するレポートを作成する。	
第56.57.58.59.60回	⑤看護師対象のフットケア研修に対する計画立案 ・研修参加看護師の特性と特性を踏まえた研修計画を立案し検討する 【講義・演習】(神谷・院生) ⑥看護師対象のフットケア研修の実践と参加観察および評価 ・教員が行う研修会に参加し、その実践内容の把握と参加観察、および評価を行い、研修会終了後その方法、内容について効果を検討する。 【講義・演習】(神谷・院生) 学会参加による慢性看護分野における研究の動向と学生の研究分野に関する研究の把握 【講義・演習】(神谷・院生)			5時間
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート60%(組織・システム分析)プレゼンテーションやディスカッションの内容			
フィードバックの方法	レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出することがある。			
他 の 授 業 と の 関 連	研究方法論・慢性看護学特論Ⅱ			
テ キ ス ト	上記科目で用いた参考書			
参 考 図 書	必要時講義で提示する			
履修上の留意点	方法は文献講読および組織・システム分析の実践。各自取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティーク所見を述べる(30分)。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。組織・システム分析は参加観察などを通して行う。分析結果をレポートにまとめる。			
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時はk.kodaira@kki.ac.jpに連絡してください。			
実務経験のある教員	小平 京子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	慢性看護学セミナー [Chronic Nursing Seminar]	担当教員名	◎小平 京子、神谷 千鶴、江川 隆子 笠岡 和子、山本 道雄、栗井 光代	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	4単位・120時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1, 2, 3, 4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>慢性看護学特論および演習を通して得た知識や技術をもとに、学生の研究課題にかかわる看護援助モデルや評価モデル、教育システムモデルなどの検討を深めるために、慢性疾患の専門外来などで参加観察等を通してその能力を学修・修得する。さらに学生の研究課題に沿った研究計画を立案する。</p> <p>[学修目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の研究課題を提示しディスカッションすることで、課題の明確化が図れる。</li> <li>・自己の研究テーマに関連する英文論文のクリティークとディスカッション、プレゼンテーションができる。</li> <li>・自己の研究テーマにかかわる教育システムや看護介入モデルに関する参加観察の計画立案ができる。</li> <li>・研究計画書作成に向けて対象者人数の選定とその方法、データ入力と統計処理について説明できる。</li> <li>・看護系学会への参加を通して、自己の研究計画の検討ができる。</li> <li>・修士論文公聴会への参加を通して具体的な研究のプロセスを把握し説明できる。</li> <li>・研究計画書から修士論文作成までのプロセスとその要点について記述・説明できる。</li> </ul>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第1.2回	1. 学生の研究課題のプレゼンテーションとディスカッション 【発表等】(院生/小平・江川・神谷・笠岡)		授業内容に関する 文献等の講読と学 修記録の作成 英文献の翻訳とレ ポート作成	2時間
第3.4.5.6.7.8.9.10. 11.12回	2. 学生の研究テーマに関する英文論文の講読 (クリティークとディスカッション、プレゼンテーション) 【講義】(山本) 【発表等】(院生)			10時間
第13.14回	慢性病の看護領域のフィールド(糖尿病・腎不全・がん等)における文 献および経験等を通して検討した看護介入モデルや組織・教育システム等 についての参加観察の計画立案について 【講義】(小平)		学生の研究課題に かかわる海外論文・ 国内論文(原著論 文)を計画的に収集・ クリティークを行うと もに修士論文の文 献記載法に則り文献 データを作成する。	2時間
第15.16回	研究計画書の作成(対象人数の選定方法) 【講義】(神谷)			10時間
第17.18回	文献購読:対象選定の方法について「検出力と効果量」 【講義】(神谷)			
第19.20回	演習:対象選定の方法についてGpowerを使ったクリティーク 【講義・演習】(神谷)			
第21.22.23.24回	演習:研究データの入力と統計処理(SPSS)①②③ 【講義・演習】(神谷)		10時間	
第25.26.27.28.29. 30.31.32.33.34回	学生の研究に関連する学会への参加(日本看護科学学会、日本看護診断 学会、慢性看護学会、日本糖尿病・教育看護学会等)と発表研究に関す るディスカッション 【学会参加】(院生・江川・笠岡 他教員)			
第35.36.37.38.39. 40回	修士論文公聴会への参加と討議への参画 【公聴会参加】(院生 小平他教員)			
第41.42.43.44.45. 46.47.48.49.50回	・学生の研究に関する重要論文の選択と講読・クリティーク(質的研究論 文を主に) ・文献の整理と記述方法 ・自己の研究計画書の作成と検討 ・自己の修士論文の作成と検討 【講義・演習】(院生・小平)		10時間	
第51.52.53.54.55. 56.57.58.59.60回	修士論文のブラッシュアップ ・使用用語の精選 ・論文構成の見直し ・文献の表示方法の検討 ・文の構成と質の検討 【講義・演習】(院生・栗井・小平)			
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート(研究課題に係る患者や家族のライフストーリーの分析、フィジカルアセスメント結果、研究課題に係る組織・システム分析)および海外文献の講読結果のレポートの提出とプレゼンテーション 60%、研究計画プレゼンテーション40%			
フィードバックの方法	プレテストや参加観察は、目的や方法を明確にしたうえで計画を立案し指導教員に提出する。それらを基にした学生相互のディスカッションを通して、研究課題を明確にし、研究計画立案に反映する。ディスカッション後レポートを作成する。海外文献の講読レポートについては担当教員の指示に従う。			
他の授業との関連	研究方法論 特論Ⅰ・Ⅱ 演習Ⅰ・Ⅱ が学修の基本になる			
テ キ ス ト	必要時その都度提示する			
参 考 図 書	必要時その都度提示する			
履修上の留意点	修士論文作成に向けて、研究課題の明確化、研究計画書作成から修士論文作成までの一連の研究活動に向け、計画的に学修を進めることが必要。			
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時は k.kodaira@kki.ac.jp に連絡してください。			
実務経験のある教員	小平 京子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)、江川 隆子(看護師)、笠岡 和子(看護師)、 山本 道雄(哲学)、栗井 光代(文学)			

授業科目名 [英文表記]	慢性看護学実習 [Chronic Nursing Practicum]	担当教員名	◎小平 京子、江川 隆子、奥津 文子、 神谷 千鶴、笠岡 和子、下舞 紀美代、 箕浦 洋子	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	4単位・120時間		○	
授 業 形 態	実習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、3、4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>学生の研究課題について、関連病院等において、教員および専門看護師等と協働し、研究課題に沿って患者のライフヒストリーの聴取や分析、フィジカルアセスメント等を実施し、健康の回復に影響する因子を明らかにしたうえで、看護介入とその有効性の検証方法を学修する。あるいは、有効な看護介入のために開発した組織や教育システムを実施し、その有効性の検証方法を学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な研究課題(患者特性の明確化や看護介入モデル・組織/教育システムの有効性など)についての研究課題を検討し、その検証のための実施方法を明確にすることができる。</li> <li>・研究課題の検証可能な医療施設選択と実習依頼のための計画書を作成し、実習施設の承諾を得ることができる。</li> <li>・実習計画の具体化を図るため、担当教員・臨地の認定/専門看護師と検討・立案できる。</li> <li>・担当教員・臨地の認定/専門看護師の指導の下、実習計画に沿った実習が実施できる。</li> <li>・実習内容とその有効性等についてレポートにまとめることができる。</li> <li>・レポートを基にプレゼンテーションおよびディスカッションにおける担当教員・臨地の認定/専門看護師の指導を受け、開発した組織や教育システム・看護実践の有効性に関するレポートを修正提出できる。</li> </ul>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第1.2.3.4.5.6.7.8.9. 10回	1. 各自の具体的な研究課題(患者特性の明確化や看護介入モデル・組織/教育システムの有効性など)についての研究課題をプレゼンテーション・ディスカッションを通して共有・検討し、その検証のための実施方法を明確にする。 【演習・講義】(院生・担当教員)		研究課題のプレゼンテーションおよびそれらの検証のための実習計画を綿密な計画のもとに準備する。	実習計画およびそのための十分な時間を計画的に準備する。
第11.12.13.14.15回	2. 研究課題にかかわる実践の検証が可能な医療施設選択と施設への実習依頼のための計画書を作成し、実習施設の承諾を得る。 【演習・講義】(院生・担当教員)		研究課題・実習計画・レポート内容のプレゼンテーション等にかかわる資料は、その都度提示できるように準備する。	
第16.17.18.19.20回	3. 実習計画の具体化を図るため、担当教員・臨地の認定/専門看護師と検討・立案する。 【演習】(院生・担当教員・臨地の認定/専門看護師)			
第21.22.23.24.25. 26.27.28.29.30. 31.32.33.34.35. 36.37.38.39.40. 41.42.43.44.45回	4. 実習計画に沿った実習の実施 【実習】(院生・担当教員・臨地の認定/専門看護師)			
第46.47.48.49.50回	5. 実践内容とその有効性等についてレポートにまとめる。			
第51.52.53.54.55回	6. レポートを基に担当教員・臨地の専門/認定看護師にプレゼンテーションを行い、結果についてディスカッションを行うとともに、内容についての指導を受ける。			
第56.57.58.59.60回	7. 指導を基にレポートの修正等を行い検証結果に関する最終のレポートを作成/提出する。			
学修評価の方法 基準(割合%)	実習に関するレポート(ルーブリック評価表参照)60%、臨床の指導者を交えたカンファレンスにおける評価20%、プレゼンテーションおよびディスカッション等20%			
フィードバックの方法	実習における日々の臨床指導者を交えたカンファレンスおよびレポートを基にしたプレゼンテーション/ディスカッションを通してその都度フィードバックを行う。			
他の授業との関連	研究課題に関するこれまでの科目が基盤となるため、特に研究方法論に関する授業内容の見直しを十分にしてください。			
テ キ ス ト	研究課題に関わるテキストを参照すること。			
参 考 図 書	必要時その都度関連図書を提示する。			
履修上の留意点	臨地での実習においては、綿密な実習計画立を基に、臨床の指導者の指導の受けながら、院生としてまた実践者としての倫理的で真摯な態度と実践力が求められます。常に研究対象者の安全と安楽に配慮し、教員・指導者との綿密な連絡を取りつつ実習に望んでください。			
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時は k.kodaira@kki.ac.jp に連絡してください。			
実務経験のある教員	小平 京子(看護師)、江川 隆子(看護師)、奥津 文子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)、笠岡 和子(看護師)、下舞 紀美代(看護師)、箕浦 洋子(看護師)			

授業科目名 [英文表記]	地域看護学特論 I [Community Health Nursing Theory]	担当教員名	◎伊木 智子、古川 秀敏、菅 佐和子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	5	ディプロマ・ ポリシー番号	2、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>現象や状況に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を養うために、地域看護学の基本的かつ主要な概念であるヘルスプロモーションの概念分析・理論、ヘルスプロモーションの考えに基づく地域看護活動の効果的な支援方法の開発と評価について国内外の原著論文をクリティークする。このクリティークのPresentationとDiscussionを通して概念、理論の適用や実践の検証について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスプロモーション活動の現状と課題を分析し地域看護活動との関連を説明できる。</li> <li>対象者理解のためのライフストーリーに関する方法論を用いて分析ができる。</li> <li>ライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間	
第1～5回	我が国及び諸外国におけるヘルスプロモーションの概念に関する国内外の文献レビューをもとに、ヘルスプロモーション活動の現状と課題を分析し地域看護活動との関連を考察する。さらに、地域看護診断と健康課題との関連を構造的にとらえ、地域における生活習慣病・介護予防に関するヘルスプロモーションのための地域看護活動の展開方法と技術開発を探究する。 【講義】(菅)	論文の抄読とまとめ	各回 4時間	
第6～10回	地域住民のグループ育成やネットワーク構築について、ヘルスプロモーションの概念に基づいた地域看護活動の理論的枠組みを考察する。さらに、対象者理解のためのライフストーリーに関する基礎知識、方法論を探究する。 【講義】(伊木)	論文の抄読とまとめ	各回 4時間	
第11～15回	地域看護学に重要な発達理論およびライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について考察する。 【講義】(古川)	論文の抄読とまとめ	各回 4時間	
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポートを60% 授業への主体的参加を重視し、討論の準備、参加、プレゼンテーションの内容を40%			
フィードバックの方法	その都度提示する。			
他の授業との関連	地域看護学特論II			
テ キ ス ト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。			
参 考 図 書	必要な文献はその都度提示する。			
履修上の留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は <tiki@kki.ac.jp> に連絡ください。			
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師)、高取毛 敏雄(公衆衛生学専門家)、川崎 裕美(保健師)			

授業科目名 [英文表記]	地域看護学特論Ⅱ [Advanced Community Health NursingⅡ]	担当教員名	◎古川 秀敏、伊木 智子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	2, 3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>住民が自立した生活を送れることを支えるためのシステムを構築・改変する能力を養う。地域看護学における看護活動実践のための組織と教育システムに必要な組織力と看護援助能力を開発するために、組織分析・システム分析に関する必要概念と理論を国内外の研究論文をとおして学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学における諸理論を説明できる。</li> <li>2. 地域看護学における看護活動実践のための組織分析について説明できる。</li> <li>3. 地域看護学における看護活動実践のためのシステム分析について説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第1～6回	地域ヘルスシステムと健康教育システムおよびそれらに係る看護者の教育システムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。 【講義】(伊木)		論文の抄読とまとめ	各回 4時間
第7～11回	高齢者を取り巻く保険医療福祉政策の現状と課題を多面的に理解し、退院支援や地域連携に関するシステムの構築およびそれらに係る看護者の教育システムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。 【講義】(古川)		論文の抄読とまとめ	各回 4時間
第12～14回	Community-Based Participatory Research(コミュニティを基盤とした参加型研究)や住民との協働による地域づくりの文献を用いて、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法およびそれらに係るシステムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。 【講義】(古川)		論文の抄読とまとめ	各回 4時間
第15回	地域看護学に重要な発達理論およびライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について考察する。 【講義】(古川)		論文の抄読とまとめ	各回 4時間
学修評価の方法 基準(割合%)	授業への主体的参加を重視し、討論の準備(10%)、討論への参加(10%)、プレゼンテーションの内容(80%)を評価する。			
フィードバックの方法	presentation時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	地域看護学特論Ⅰの授業に関する学修理解を前提とします。			
テ キ ス ト	特に設けません。			
参 考 図 書	随時、紹介します。			
履修上の留意点	深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す研究姿勢を自ら育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は <h.furukawa@kki.ac.jp> に連絡ください			
実務経験のある教員	古川 秀敏(保健師)、伊木 智子(保健師)			

授業科目名 [英文表記]	地域看護学演習 I [Community Health Nursing Exercise 1]	担当教員名	◎伊木 智子、古川 秀敏	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2 単位・60 時間		●	
授 業 形 態	演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	5	ディプロマ・ ポリシー番号	2、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>現象や状況を批判的に分析し、ケアを変革していく能力を養う。地域看護学特論 I で学んだことから、自身の関心のある分野を選択し、関心のある現象についての概念について国内外の原著論文をクリティークする。このクリティークの Presentation &amp; Discussion を通して概念、理論の適用や実践の検証について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフヒストリーの分析をもとに研究課題について記述し説明できる。</li> <li>2. 研究課題において先行研究をふまえて実施可能な研究方法について説明できる。</li> <li>3. 自らの研究課題を決定し研究計画を論述できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	目標時間	
第 1 ~ 10 回	生活習慣病予防看護領域の国内外の文献レビューによる考察を深め、ライフヒストリーの分析をもとに予防的看護活動における学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。 (伊木)	・授業内容に関連する国内外の文献収集と文献ノートを作成する。自らの研究課題に関する原著論文を計画的に収集し文献ノートを作成する。	毎回 1 時間	
第 11 ~ 20 回	住民との協働による地域づくりにむけて、先行研究をふまえ、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法を学び、学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。 (伊木)			
第 21 ~ 30 回	在宅における高齢者や家族、介護予防看護に関する国内外の文献レビューによる考察を深め、在宅看護や高齢者の介護予防看護領域において、学生自らの興味・関心のある概念や理論を探究する。 (古川)			
学修評価の方法 基準 (割合%)	主体的で計画的に課題に取り組む姿勢と正しい知識や理論に基づいた presentation & discussion 70% は、ルーブリック評価とします。研究計画書 30% は、信頼性等の基準に基づく評価とします。			
フィードバックの 方 法	presentation 時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	地域看護学特論 I・II、地域看護学演習 II、研究方法論			
テ キ ス ト	指定のテキストはありません。			
参 考 図 書	参考書等、個々の研究課題に関する個別面談や授業で適宜提示します。			
履修上の留意点	演習方法は、文献講読で行います。指定した文献を講読し、内容について presentation を行います。その後、参加メンバーによる discussion を行います。 講義日までに輪読や論文抄読の対象となる文献に目を通しておくようにしてください。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は <liki@kiki.ac.jp> に連絡ください。			
実務経験のある教員	伊木 智子 (保健師)、古川 秀敏 (保健師)			

授業科目名 [英文表記]	地域看護学演習Ⅱ [Community Health Nursing Exercise Ⅱ]	担当教員名	◎古川 秀敏、伊木 智子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	4単位・120時間		●	
授 業 形 態	演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	2, 3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 地域看護学領域におけるシステム構築に関する主要な概念の分析と諸理論について事例分析と研究論文を通して学修する。</p> <p>[学修目標] 1. システム構築に関する主要な概念を説明できる。 2. システム構築に必要な諸理論を説明できる。 3. 事例分析について説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間	
第1～20回	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ケアシステム構築に関する研究のレビューを行う。地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、組織分析のための計画の立案を行い、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。 【演習】(古川)	論文の抄読とまとめ	各回2～3時間	
第21～30回	高齢者やその家族に対する看護援助や高齢者ケアシステムの充実・発展、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、高齢者ケアシステム、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。 【演習】(伊木)	論文の抄読とまとめ	各回2～3時間	
第31～40回	住民との協働による地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、住民主体の地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。 【演習】(古川)	論文の抄読とまとめ	各回2～3時間	
第40～60回	淡路地域で実践されている生活習慣病予防システム、住民主体の地域ヘルスケアシステム、高齢者ケアシステム、介護予防システムにおいて、行政機関に勤務する保健師など専門職及び事務職と共に、課題の抽出・分析、システムの改革・構築の試案を作成、実践・検証する。【演習】(古川)	論文の抄読とまとめ	各回2～3時間	
学修評価の方法 基準(割合%)	授業への主体的参加を重視し、討論の準備(10%)、討論への参加(10%)、プレゼンテーションの内容(80%)を評価する。			
フィードバックの方法	presentation時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	地域看護学演習Ⅰの授業に関する学修理解を前提とします。			
テ キ ス ト	特に設けません。			
参 考 図 書	随時、紹介します。			
履修上の留意点	深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す研究姿勢を自ら育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は<h.furukawa@kki.ac.jp>に連絡ください。			
実務経験のある教員	古川 秀敏(保健師)、伊木 智子(保健師)			

授業科目名 [英文表記]	地域看護学セミナー [Community Health Nursing Seminar]	担当教員名	◎古川 秀敏、山本 道雄、伊木 智子	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	4単位・120時間		●	
授 業 形 態	演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1, 2, 4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>実践技術の研究・検証を理論開発につなげ、その領域の学問の基礎をつくる能力を養う。特論および演習で得た知識や技術を通して開発した組織やシステム、看護実践等の検証のために、地域や組織、チーム等において、実践的研究方法を修得する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学の研究領域における課題について説明できる。</li> <li>2. 論文クリティークの意義、目的、方法を基盤として論文をクリティークできる。</li> <li>3. 自らの研究のクリニカルクエスト、リサーチクエストを説明できる。</li> <li>4. 看護界に貢献する研究課題の設定について記述整理し説明できる。</li> <li>5. 自らの研究課題を決定し研究計画書に論述できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第1～10回	ライフストーリーの分析、組織分析をもとに学生自らの興味・関心のある研究課題に関連する概念や理論を探究し、特に国外における英文献を中心に 【演習】(山本)		授業内容に関する プレゼンテーション 資料の作成並びに 関連する文献収集と 文献リストを作成す る。自らの研究課 題に関する原著論 文を計画的に収集し 文献リストを作成す る。	毎回 1～2 時間程度
第11～15回	退院支援や地域連携に関するシステム構築において、看護援助モデルや組織、教育システムの開発と検証のために訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどの地域組織、チーム等において、事例検討を通じて、参加観察型実習やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。 【演習】(伊木)			合計 60時間
第16～40回	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ヘルスケアシステム構築において、開発した保健指導モデルや健康教育モデル、教育システムの開発と検証のために、地域組織、チーム等において、健康課題の抽出からヘルスケアシステムの構築につなげていく事例を通じて、参加観察型実習やプレテストの実施およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。 【演習】(古川)			
第41～60回	地域住民のグループ育成やネットワーク構築において、看護援助モデルや組織、教育システムについての参加観察型実習やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。 *高度実践看護職コースは、地域看護活動において、リーダー として必要な企画・調整機能・スタッフに対する相談・教育 機能及び実践的研究をする。 *教育者・研究者コースは、実践技術の研究・検証を理論開発につなげ、地域看護学領域の学問を体系的に探究する。 【演習】(古川)			
学修評価の方法 基準(割合%)	主体的で計画的に課題に取り組む姿勢と正しい知識や理論に基づいたプレゼンテーション(70%)を評価とします。研究計画書(30%)を評価とします。			
フィードバックの方法	プレゼンテーション時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	総ての授業、特に地域看護学特論特論Iの授業に関する学修理解を前提とします。			
テ キ ス ト	特に設けません。			
参 考 図 書	参考書等、個々の研究課題に関する個別面談や授業で適宜提示します。			
履修上の留意点	深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す研究姿勢を自ら育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は h.furukawa@kki.ac.jp> に連絡ください。			
実務経験のある教員	古川 秀敏(保健師)、伊木 智子(保健師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	地域看護学実習 [Community Health Nursing Practicum]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子、古川 秀敏	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	4単位・120時間		○	
授 業 形 態	実習	● - 必修・○ - 選択		
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	2、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>公衆衛生看護管理の実際について、1つの行政地域を単位として地域診断を実施し、地域の活動計画、評価計画を立案する。それに基づいて保健事業プログラムを開発し、実践現場の保健師と共に効果的な事業の運営や管理を行い、公衆衛生看護管理に必要な実践能力やケア方法を開発する能力を獲得する。また、他機関や他組織との連携、ネットワーク形成などの現状と課題を分析し、望ましいケアシステム形成へ向けて調整する能力を獲得する。</p> <p>在宅・老年看護学の実際について、専門看護師が勤務する訪問看護ステーションで、在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、調整に関する能力を培う。そのために、専門看護師と共に在宅生活の継続期、移行期にある複雑な問題を抱えた療養者を受け持ち、高度な看護実践を行う。また、チームアプローチの促進に向けて重要な課題である在宅ケアスタッフに関する教育、相談、他職種他組織との連携を行うことを中心としながら、問題解決していく能力を獲得する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>〈公衆衛生看護管理〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護管理の基本と過程の事前学修を深め学修成果を記述できる。</li> <li>2. 地域看護診断の手法を活用し地域の健康課題を特定し説明することができる。</li> <li>3. 地域の特性を考慮し健康課題解決に向けた事業計画、評価計画を立案し保健事業プログラムを考案することができる。</li> <li>4. 保健事業プログラムの展開と公衆衛生看護の役割・機能について説明することができる。</li> <li>5. 地域におけるケアシステムの形成プロセスをふまえて、今後の発展に向けた方策を提案することができる。</li> <li>6. 在宅・老年看護学における療養者とその家族を対象とした包括的なアセスメントに基づく計画立案、実施、評価の一連の高度な看護実践について記述することができる。</li> <li>7. ケア提供者と共に看護ケアに関する課題を把握しコンサルテーションを行うことができる。</li> <li>8. チームアプローチの促進に向けた課題分析からケアが円滑に提供できるための連携のあり方の検討、改善策について提案することができる。</li> </ol> <p>4. 在宅看護学、老年看護学の研究課題の明確化、焦点化することができる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間	
実 習 計 画	<p>【公衆衛生看護管理における臨地実習の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題に関連した施設機関での実習を行う。</li> <li>・地域看護学演習Ⅰ・Ⅱで検討した地域看護学に関する課題について、自身の研究課題に関連する実習施設において、参加観察やインタビュー等の実習を行うことで、研究課題の明確化、焦点化につなげる。</li> <li>・地域診断の手法を用いて健康課題の抽出、事業計画、実施、評価のPDCAサイクルの視点で公衆衛生看護管理を行う。</li> </ul> <p>【在宅・老年看護学における臨時実習の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な知識と技術を用いて、在宅療養者の療養過程を管理しながら、包括的なアセスメントを行い、ケア計画立案、看護ケアを実践、評価する。</li> </ul>	<p>事前学修 これまでの講義や演習で修得した内容を統合し、実習計画書、研究課題に関する文献検討を行い事前レポートへまとめる。 適宜実習記録類一式を作成</p> <p>事後学修 実習日毎に実習内容と考察、実習目標に対しての評価を記録にまとめる。</p> <p>実習後レポート 研究課題を踏まえて実習レポートを作成する</p>	<p>毎回 3時間 程度</p> <p>毎日 実習記録 1時間程度</p> <p>5時間程度</p>	
学修評価の方法 基準（割合％）	実習態度、実習内容（50％）、記録物（30％）、プレゼンテーション（20％）			
フィードバックの方法	プレゼンテーションはその講義内で講評する。実習時はカンファレンス等により適宜フィードバックを受ける			
他の授業との関連	地域看護学特論Ⅰ・Ⅱ、地域看護学演習Ⅰ、Ⅱ、地域看護学セミナー、保健統計学、研究方法論、コンサルテーション論			
テ キ ス ト	教科書は特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。			
参 考 図 書	適宜提示する。			
履修上の留意点	地域看護学演習Ⅰ・Ⅱで明確化、焦点化された研究課題をについて研究的視点と実践的視点から実習が進めるように、事前準備、事後の振り返り、文献検討など主体的に学修を行ってください。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は〈tiki@kki.ac.jp〉に連絡ください。			
実務経験のある教員	伊木 智子（看護師・保健師）、古川 秀敏（看護師・保健師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母性看護・助産学特論 I [Advanced Maternity Nursing/ Midwifery I]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、塩田 敦子	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数・時 間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1, 3, 5	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1, 3, 5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>女性のライフサイクルと家族の発達・妊娠・出産・育児に関する支援、ウイメンズヘルスケアに関する概念と理論、特別な支援を要する女性の健康問題や、周産期の遺伝医療、出生前診断、生殖補助医療等、生殖に関する高度先端医療について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウィズメンズヘルスケアに関する概念と理論について記述整理し説明できる。</li> <li>2. 女性のライフステージ各期のメンタルヘルスと健康支援について説明できる。</li> <li>3. 女性のライフサイクルと家族の発達・妊娠・出産・育児支援について説明できる。</li> <li>4. 現代女性に特別に支援を要する健康問題や、周産期の遺伝医療、出生前診断、生殖補助医療等、生殖に関する先端医療について記述整理し説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間
第 1 回	1. 女性と家族の生涯に渡る健康における性と生殖 【講義】(松村) ・性科学の概念 ・性の多様性 ・ウイメンズヘルスケア		学修内容の記述 整理・考察	4 時間
第 2 回	2. 女性のライフサイクルと家族の発達 【講義・演習】(松村) ・女性の生涯と社会の移り変わり ・マタニティサイクル		文献検討・整理	4 時間
第 3 回	3. ウィズメンズヘルスケアに関する概念と理論 【講義】(松村) ・ナラティブレビュー ・システムティックレビュー		文献検討	4 時間
第 4 回	4. ウイメンズヘルスと周産期の助産ケア 【講義・演習】(松村) ・クリニカルクエストからリサーチクエストへ		文献検討	4 時間
第 5 回	5. 女性と家族の妊娠、出産、育児に関する支援 【講義】(松村) ・女性のライフステージ各期のメンタルヘルスと健康支援		文献検討	4 時間
第 6 回	6. ウイメンズヘルスに関する文献レビュー 【演習】(松村) Presentation & discussion		文献検討	4 時間
第 7 ~ 11 回	【慢性看護学特論 I : 合同講義 5 回】 ウイメンズヘルスに関する疾患を持つ人を包括的に理解するためのライフヒストリーとその分析方法		学修内容の記述 整理・考察	20 時間
第 12 回	12. 現代女性に特別に支援を要する健康問題 【講義】(塩田) ・不妊、月経障害等で悩む女性の支援 ・東洋医学の効用		学修内容の記述	4 時間
第 13 回	13. 周産期の遺伝医療と遺伝カウンセリング 【講義】(塩田) ・遺伝医学の重要性 ・遺伝と遺伝性疾患		学修内容の記述	4 時間
第 14 回	14. 出生前診断の概念、目的、生命倫理 【講義】(塩田) ・出生前診断におけるガイドライン ・着床前遺伝子診断		学修内容の記述	4 時間
第 15 回	15. 生殖補助医療 【講義】(塩田) ・生殖補助医療の実際 ・生殖補助医療における課題		学修内容の記述 整理・考察	4 時間
学修評価の方法 基準(割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion 30%、授業終了時の小論文 70%、学修内容はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他 の 授 業 と の 関 連	「母性看護・助産学特論 II 及び演習 I」「看護学特別研究」と連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育第 2 巻 ウィメンズヘルスケア 日本看護協会出版会 助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履 修 上 の 留 意 点	母性看護・助産学特論 I の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オ フ ィ ス ア ウ ー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)、塩田 敦子(医師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母性看護・助産学特論Ⅱ [Advanced Maternity Nursing/ Midwifery Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1, 3, 5	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1, 3, 5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>助産実践能力の質向上を目指す指標、多様な課題を持つ助産ケア対象の支援、子育て世代包括支援、院内助産、助産学研究における法規範と倫理等に関する研究課題を組織分析し、システムとしての構築や変革に関する概念や理論について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産実践能力の質向上を目指す指標について記述整理し説明できる。</li> <li>2. ウィメンズヘルスにおける女性とパートナーのケアについて説明できる。</li> <li>3. 多様な課題を持つ助産ケア対象の支援について説明できる。</li> <li>4. 母子とその家族の安全・安心な地域包括ケアシステムについて説明できる</li> <li>5. 周産期医療施設における院内助産システムの実際と課題について説明できる。</li> <li>6. 助産実践の質向上を目指す助産学研究について自らの考えを説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第1回～第5回	【慢性看護学特論Ⅱ：合同講義5回】 研究課題に関する組織分析と目的、組織分析の視点と方法、システムとして構築・改変するための組織分析の概念と理論		学修内容の記述 整理・考察	4時間
第6回	6. 助産実践能力の質向上を目指す指標 【以下すべて講義・演習】		文献検討	4時間
第7回	7. 国際助産師連盟「助産実践に必須のコンピテンシー」		文献検討	4時間
第8回	8. 日本助産学会「日本の助産師が持つべき実践能力と責任範囲」		文献検討	4時間
第9回	9. 日本助産師会が示す「助産師のコア・コンピテンシー」と開業助産師のクリニカルラダー・日本看護協会が示す「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」		学修内容の記述 整理・考察	4時間
第10回	10. ウィメンズヘルスにおける女性とそのパートナーのケア ・プレコンセプションケアの概念 ・安全な性行動の意志決定		文献検討・整理 学修内容の記述上	4時間
第11回	11. 多様な課題を持つ助産ケア対象の支援における社会資源 ・社会的ハイリスク（特定妊婦、妊娠の受容困難、未受診者等） ・性差医療の対象 ・在留外国人の妊産褥婦と子その家族		学修内容の記述	4時間
第12回	12. 母子とその家族の安全・安心な地域包括ケアシステム ・子育て世代包括支援 ・産後ケア ・地域連携		学修内容の記述	4時間
第13回	13. より充実した母子ケアのための体制整備 ・産科混合病棟ユニットマネジメント ・周産期危機管理		学修内容の記述	4時間
第14回	14. 周産期医療施設における院内助産システム ・院内助産と助産師外来 ・オープン、セミオープンシステム		学修内容の記述	4時間
第15回	15. 助産学研究における法規範と倫理・助産実践の質向上		学修内容の記述 整理・考察	4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion30%、授業修了時の小論文70%、学修内容はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他 の 授 業 と の 関 連	「母性看護・助産学特論Ⅱ及び演習Ⅰ」「看護学特別研究」と連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育第2巻 ウィメンズヘルスケア 日本看護協会出版会 助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履修上の留意点	母性看護・助産学特論Ⅱの授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母性看護・助産学演習 I [Maternity Nursing/Midwifery Exercise I]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数・時 間	2単位・60時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1、2、5	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 母性看護学・助産学の研究領域における現象等に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を育むために、母性看護・助産学特論Iでの学びを継続し、研究成果を論述した国内外の原著論文をクリティークする。このクリティークの presentation &amp; discussion を通して概念、理論の適用や実践の検証について学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 母性看護学・助産学の研究領域における課題について説明できる。 2. 論文クリティークの意義、目的、方法を基盤として論文をクリティークできる。 3. 自らの研究のクリニカルエクステション、リサーチエクステションを説明できる。 4. 看護界に貢献する研究課題の設定について記述整理し説明できる。 5. 自らの研究課題を決定し研究計画書に論述できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間	
第1回	1. 母性看護学・助産学における研究課題の概観と展望	【講義】松村	研究課題の明示	1時間
第2回	2. 現段階で考えている自らの研究課題の presentation	【発表】院生	文献検討	1時間
第3回	3. 研究課題における新規性、有用性、信頼性の基準	【講義】松村	文献検討	1時間
第4回	4. 論文クリティークの意義と方法	【講義】松村	学修内容の考察	1時間
第5回	5. ウィメンズヘルスに関する原著論文のクリティーク	【講義】松村	文献検討	1時間
第6回	6. 研究デザインを中心とした文献クリティーク	【発表】院生	文献検討	1時間
第7.8.9.10回	1) 量的研究3編 ②質的研究3編	【課題学修4コマ】	課題の発表準備	4時間
第11回	2) 量的研究論文 presentation&discussion	【発表】院生	学修内容の考察	1時間
第12回	3) 質的研究論文 presentation&discussion	【発表】院生	文献検討	1時間
第13.14.15回	4) 年次推移から文献検索・推移のまとめ	【課題学修3コマ】	課題の発表準備	3時間
第16回	5) 年次推移からの文献 presentation&discussion	【発表】院生	学修内容の考察	1時間
第17.18回	6) 日本における和文献検索	【課題学修2コマ】	課題の発表準備	2時間
第19回	7) 日本における和文献 presentation&discussion	【発表】院生	学修内容の考察	1時間
第20.21回	8) 国外における英文献検索	【課題学修2コマ】	課題の発表準備	2時間
第22回	9) 国外における英文献 presentation&discussion	【発表】院生	学修内容の考察	1時間
第23回	7. 研究におけるクリニカルエクステション	【講義】松村	研究課題の考究	1時間
第24回	8. 研究におけるリサーチエクステション	【講義】松村	文献検討	1時間
第25回	9. 研究の意義、問題の所在と研究課題の設定	【講義】松村	文献検討	1時間
第26回	10. 自らの研究課題に関する presentation	【発表】院生	文献検討	1時間
第27回	11. 研究課題の分析 presentation&discussion	【発表】院生	研究課題の決定	1時間
第28回	12. 研究計画書作成における主要な構成要素	【講義】松村	研究計画書作成	1時間
第29.30回	13. 研究計画書の吟味 presentation&discussion	【発表】院生	研究計画書作成	2時間
学修評価の方法 基準(割合%)	主体的で計画的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion70% は、ループ リック評価、研究計画書30% は、信頼性等の基準に基づく評価とします。			
フィードバックの方法	presentation 時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	「母性看護・助産学特論I、II」「看護学特別研究」と連動します。			
テ キ ス ト	指定のテキストはありません。			
参 考 図 書	参考書等、個々の研究課題に関する個別面談や授業で適宜提示します。			
履修上の留意点	深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す研究姿勢を自ら育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< k.matsumura@kki.ac.jp >に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母性看護・助産学演習Ⅱ [Maternity Nursing/Midwifery Exercise II]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、尾筋 淑子、 永峰 啓子、専門分野教員	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	4単位・120時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	5	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>高度実践看護職養成コース [ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>研究課題にかかわる組織分析やシステムとして構築・変革するための分析方法を学修する。思春期、成熟期女性、中高年女性とその家族に対する助産ケアやソーシャルサポートに関する理論と、健康問題に対する健康教育、集団教育の演習を通してヘルスプロモーション向上のための知識と技術を学修する。</p> <p>NICU・GCUに入院した児及び家族への支援について演習を通して学修する。病院における助産マネジメントの視点から助産業務管理について演習を通して学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述できる。</li> <li>2. 思春期女性の健康と健康問題に対する健康教育が実施できる。</li> <li>3. 中高年女性の健康や更年期女性の健康問題に対する健康教育が実施できる。</li> <li>4. NICU・GCUに入院した児及び家族への支援について記述し、説明できる。</li> <li>5. 病院における助産マネジメントの視点から助産業務管理について記述し、説明できる。</li> </ol> <p>教育者・研究者養成コース [ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>研究課題にかかわる組織分析やシステムとして構築・変革するための分析方法を学修する。研究課題に関する先行研究論文を記述する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関する先行研究論文を記述し、説明できる。</li> <li>2. 研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果を記述し、説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間	
第1回～20回	高度実践看護職養成コース ・研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述と発表 【演習】松村	研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析を文献等用いて分析考察し、プレゼンテーションを行う。	10時間	
第21回～32回	・思春期女性の健康と健康問題に対する集団教育、個別相談、健康教育に伴うヘルスプロモーション向上のための知識、技術の探究 【演習】永峰	思春期女性の健康と健康問題を考察し、健康教育の計画、立案しプレゼンテーションを実施、評価する。	10時間	
第33回～40回	・中高年女性の健康や更年期女性の健康問題に対する集団教育と個別相談、健康教育に伴うヘルスプロモーション向上のための知識、技術の探究 【演習】尾筋	中高年女性の健康や更年期女性の健康問題を考察し、健康教育を計画立案し、健康教育を実施し評価する。	10時間	
第41回～50回	・NICU・GCUに入院中の児とその家族に対するケアの実施を施設において参加観察を通して学ぶ。ハイリスク妊娠予防のヘルスケアシステムの現状を把握し課題を検討する。 【演習】松村	施設でNICU・GCUに入院中の児とその家族に対するケアの実施を参加観察型演習で学修し、学修内容をプレゼンテーションする。課題レポートを提出する。	5時間	
第51回～60回	・助産マネジメントの視点から、病院において安全安楽な出産環境を提供するために妊娠から育児までの助産業務管理について参加観察の助産演習を通して助産システムの現状を把握し課題を検討する。 【演習】松村	施設で参加観察型演習を行い、学修内容に考察を加え、プレゼンテーションを行い、課題レポートを提出する。	5時間	
第1回～20回	教育者・研究者養成コース ・研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述と発表 【演習】松村	授業内容に関する学習記録の作成と関連する文献から分析し、記述しプレゼンテーションを行う。課題レポートを作成し提出する。	10時間	
第21回～60回	・研究課題に係る助産ケア実践のための教育システムの開発過程に関する研究論文の検討。 研究課題に係る助産ケアの質の向上のための組織改革や医療改革の開発過程に関する研究論文の検討。 研究課題に係るシステムや組織分析の実践。 【演習】松村	研究課題に関する文献等を用いて分析、考察、検討し、研究論文の作成を行う。	10時間	
学修評価の方法 基準（割合％）	単元毎の課題レポート60％、討論の内容が知識や理論に基づいているかプレゼンテーション40％、学修内容は基準に基づいたルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	課題レポートは口頭、および文書でフィードバックします。学修達成状況によって個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	母性看護・助産学特論、母性看護・助産学演習Ⅰ、母性看護・助産学特論Ⅱ、母性看護・助産学セミナー、母性看護・助産学実習、看護学特別研究			
テ キ ス ト	授業の中で適時提示します。			
参 考 図 書	授業の中で適時提示します。			
履修上の留意点	施設での演習は、施設の規定に則り誠実に演習を行う。主体的な学修姿勢で、自らの健康管理を徹底し、演習に臨みましょう。			
オフィスアワー	在室時は来訪者等の状況で調節し対応します。不在時は担当教員のアドレスまで連絡してください。			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、永峰 啓子（助産師）、専門分野教員（助産師）			

授業科目名 [英文表記]	母性看護・助産学セミナー [Maternity Nursing/Midwifery Seminar]	担当教員名	◎松村 恵子、山本 道雄、 谷川 裕子、夏目 奈緒子、 小笠原 百恵、藤尾 さおり、 岸田 佐智、淵元 純子	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	4単位・120時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1、2、3、4、5	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 母性看護学・助産学の学術的基盤に基づいた実践・教育・研究について国内外の現状と課題を分析し、看護界に貢献できる自らの研究課題を様々な演習を通して発見し、科学的な分析に基づいて論理的に明文化した研究計画書作成への過程を学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 自らの研究課題に関する英論文のクリティークができる。 2. 助産師が実践する障がい児とその家族の支援について記述整理し説明できる。 3. 助産師が実践する海外在住日本人の支援について記述整理し説明できる。 4. 母性看護学・助産学の研究領域における対象の現象について記述できる。 5. 自らの研究課題を科学的に分析する研究計画書作成過程について説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間	
第1回～10回 第11回～16回	1. 研究課題に関する英論文のクリティーク 【演習】(山本)	学修内容の記述 学修内容の考究	10時間	
第17回～18回	2. 障がい児の育児支援やベリネイタルロスの支援、母親およびその家族への支援 【演習】(谷川)		同上	5時間
第19回～22回	3. 助産師として支援をするため参画観察の助産演習を通して障がい児の現状を把握し課題の検討 【演習】(藤尾)	同上	同上	2時間
第23回～24回	4. 海外在住日本人の周産期や育児期における母子とその家族への支援と助産師としての支援活動の実際 【演習】(夏目)	同上	同上	同上
第25回～26回	5. 助産師として外国人への支援をするために、文献を通して在日外国人の現状を把握し課題の検討 【演習】(小笠原)	同上	同上	同上
第27回～28回	6. 不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援の理論と探究 【講義】(岸田)	同上	同上	同上
第29回～34回	7. 家庭内暴力を受けた女性の支援及び家族への支援の理論と探究 【講義】(淵元)	同上	同上	同上
第35回～40回	8. 女性のライフサイクルと家族の発達・妊娠・出産・育児に関する支援、ウイメンズヘルスケアに関する概念と理論、特別な支援を要する女性の健康問題や、周産期の遺伝医療、出生前診断、生殖補助医療等、生殖に関する高度先端医療に関する論文クリティークと presentation&discussion 【講義】松村 【発表】院生	学修内容の考究 課題の発表準備 自らの研究課題の 明確化 研究計画書作成	同上	10時間
第35回～40回	9. 助産実践能力の質向上を目指す指標、多様な課題を持つ助産ケア対象の支援、子育て世代包括支援、院内助産、助産学研究における法規範と倫理等に関する研究課題を組織分析し、システム構築や変革に関する概念や理論、方法に関する論文クリティークと presentation&discussion 【講義】松村 【発表】院生	同上	同上	10時間
第 11 回	10. 母性看護学・助産学の研究領域における現象等に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる研究力を育む基盤となる研究成果を論述した国内外の原著論文のクリティークと presentation&discussion 【講義】松村 【発表】院生	同上	同上	10時間
第 11 回	11. 自らの研究課題を科学的に分析してリサーチクエスチョンを論理的に明文化した研究計画書作成の吟味・検討 【演習】松村	研究課題の明示 研究計画書作成	同上	5時間
学修評価の方法 基準（割合％）	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion70%、研究計画書 30%、学修内容はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	presentation 時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。			
他の授業との関連	「母性看護・助産学特論Ⅰ、Ⅱ&演習Ⅰ、Ⅱ」「看護学特別研究」と連動します。			
テキスト	指定のテキストはありません。			
参考図書	参考書等、個々の研究課題に関する個別面談や授業で適宜提示します。			
履修上の留意点	母性看護・助産学セミナーの授業内容の学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< k.matsumura@kki.ac.jp >に連絡ください			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、小笠原 百恵（助産師）、谷川 裕子（助産師）、藤尾 さおり（助産師） 夏目 奈緒子（助産師）、岸田 佐智（助産師）、淵元 純子（助産師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母性看護・助産学実習 [Maternity Nursing/Midwifery Practicum]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、尾筋 淑子、松尾 真璃、 渡邊 和香、夏目 奈緒子、専門分野教員	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	4単位・120時間		○	
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	5	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 大学院助産学生として自身の関心、課題に係る施設において、教員および助産師と協働し、自らの課題に沿って学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 助産院における助産管理、助産管理システム、マネージメント能力、リーダーシップについて記述し、説明できる。 2. 地域における助産師の女性と子育て支援の実際と課題、育児支援の組織作り、産後ケアについて記述し、説明できる。 3. 異文化社会における助産師の母子および家族の支援、現状について記述し、説明できる。</p>			
	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
実 習 計 画	<p><b>【助産院における臨地実習の概要】</b> 助産院において、助産管理や周産期管理システムの実際に参画して観察し、指導者の監督の下で実習する。 ・助産院での安全・安楽・快適な出産環境を提供するための助産管理、助産管理システム ・助産院の助産師としての、マネージメント能力、リーダーシップ</p> <p><b>【助産院における臨地実習の概要】</b> 助産院において、地域における助産師活動に参画して観察し、指導者の監督の下で実習する。 ・女性と子育て支援の実際と課題 ・地域の関連機関・関連職種との連携の実際 ・育児支援のための組織作り ・産後ケアにおける助産師の専門性</p> <p><b>【クリニックにおける臨地実習の概要】</b> 海外のクリニックにおいて、異文化社会における助産師活動に参画し観察して、指導者の監督の下で実習する。 ・ハワイ州の出産風俗・文化、社会のありよう・価値観 ・異文化での助産師の母子保健活動や母子とその家族の支援の現状と課題</p>		自らの研究課題に関する文献を購読し、記述整理し、実習における目標を設定、実習計画を作成する。実習での目標達成度、学修内容を記述し課題レポートを作成する。	学修目標の達成状況に照らし合わせ適宜設定
学修評価の方法 基準（割合％）	実習レポート（60％）、主体的に課題に取り組む姿勢、討論の内容が知識や理論に基づいているかカンファレンス（40％）。学修内容は、基準に基づいたルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	課題レポートは、文書及び口頭にてフィードバックします。学修達成状況によって、個々に課題を提示します。			
他 の 授 業 と の 関 連	母性看護・助産学特論、母性看護・助産学演習Ⅰ、母性看護・助産学特論Ⅱ、母性看護・助産学セミナー、母性看護・助産学演習Ⅱ、看護学特別研究			
テ キ ス ト	助産学講座 基礎助産学(1)助産学概論 医学書院 最新版 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 最新版			
参 考 図 書	必要時適宜、提示します。			
履修上の留意点	自身の課題を明確にしたうえで、主体的に実習に臨み、学修しましょう。実習施設においては施設長、指導者、スタッフが指導にあたります。			
オフィスアワー	臨地において毎日、実習状況に対応して調整し相談等に対応します。臨地外は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、松尾 真璃（助産師）、渡邊 和香（助産師）、夏目 奈緒子（助産師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	生殖機能論 (母子の基礎科学)	担 当 教 員 名	◎神谷 映里、濱西 正三	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 15 時 間		●	
授 業 形 態	講 義		● - 必修・○ - 選択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>生殖に関する母子の基礎科学として、リプロダクションに関する解剖・生理、人間の性と生殖の概念、性の多様性や性をめぐる諸問題について学修する。また、生殖の形態と機能や、生殖に関連する疾患、母子の免疫、母子と感染、女性のライフサイクル各期におこる疾患、女性生殖器と乳房の疾患について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性と生殖に関する解剖と生理が説明できる。</li> <li>2. 性の機能と行動が説明できる。</li> <li>3. 母体の免疫学的特性が説明できる。</li> <li>4. 母子感染について説明ができる。</li> <li>5. 婦人科疾患について説明ができる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間
第 1 回	性と生殖の概念と助産 (神谷) 女性のライフサイクルにおけるからだの性と心の性		課題レポートの作成	4 時間
第 2 回	リプロダクションに関する解剖・生理 (1) (濱西) 母性の身体的特徴、生殖生理に関する視床下部-下垂体系機能		復習しチャトルカードの記入	4 時間
第 3 回	リプロダクションに関する解剖・生理 (2) (濱西) 卵巣機能、妊娠の成立と不妊、胎児胎盤機能、乳房の構造と乳汁分泌		復習しチャトルカードの記入	3 時間
第 4 回	性の行動と機能 (濱西) 性の分化と発達、性交と性反応、性機能不全と性別違和		復習しチャトルカードの記入	4 時間
第 5 回	母子と免疫、母子と感染 (濱西) 母子感染の背景・特徴		復習しチャトルカードの記入	4 時間
第 6 回	性感染症と母子感染、婦人科感染症 (濱西) 性感染症、婦人科の炎症性疾患		復習しチャトルカードの記入	4 時間
第 7 回	女性のライフサイクル各期におこるおこな疾患 (濱西) 思春期・成熟期の疾患、更年期・老年期の疾患		復習しチャトルカードの記入	4 時間
第 8 回	女性生殖器と乳房の疾患 (濱西) 子宮と付属器の疾患とその検査、乳房の疾患とその検査		復習しチャトルカードの記入	3 時間
学修評価の方法 基準 (割合 %)	課題 15% (神谷) はルーブリック評価とします。 定期試験 85% (濱西) は解答例に基づいて評価します。			
フィードバックの方法	毎回の講義終了後、自己の復習後に理解できた事、できなかった事をチャトルカードに記入してください。 このカードを基に追加解説等をいたします。			
他の授業との関連	助産診断・技術学特論 I (妊娠期)、助産診断・技術学演習 (妊娠期)			
テ キ ス ト	助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 (医学書院) 助産師基礎教育テキスト第 2 巻 ウイメンズヘルスケア (日本看護協会出版会)			
参 考 図 書	病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第 4 版 (メディックメディア) 病気がみえる vol.10 産科 第 4 版 (メディックメディア) その他 参考書については授業中に適宜紹介する。			
履修上の留意点	女性の健康に関わる基礎的な知識、特に生殖機能を身体的に理解するための基礎となる科目です。毎回の授業後に提出される記述内容により学修状況を確認します。毎回の復習をして次の授業に備えてください。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は < e.kamiya@kki.ac.jp > に連絡ください。			
実務経験のある教員	神谷 映里 (助産師)、濱西 正三 (医師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産学概論 [Introduction to Midwifery]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子	
期 間	1 年 ( 通 年 )	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 15 時 間		●	
授 業 形 態	講 義 ・ 演 習		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1, 4, 5	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1, 4, 5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>助産師としての求められる基本的な資質・能力における助産師と倫理、助産の起源と将来、出産の変遷、助産における基本的な概念、助産師のコア・コンピテンシー、助産学を構成する理論と研究について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師として求められる倫理について記述整理し説明できる。</li> <li>2. 助産における基本的な概念、助産師の定義と業務の専門性について説明できる。</li> <li>3. 助産師の役割と責務、コア・コンピテンシーについて記述整理し説明できる。</li> <li>4. 助産学を構成する理論と助産学研究について記述整理し説明できる。</li> <li>5. 助産師としての生涯発達について自らの考えを presentation できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間
第 1 回	1. 助産師として求められる倫理 ・助産における倫理と生命倫理・倫理的判断を支える諸概念 ・助産実践に関わる倫理的課題と意思決定支援		【講義・演習】 学修内容を記述整理し考察、文献検討	4 時間
第 2 回	2. 助産の概念 ・助産の起源・出産の変遷・助産の定義・助産の将来		【講義】 学修内容を整理文献検討	3 時間
第 3 回	3. 助産における基本的な概念 ・リプロダクティブヘルス / ライツ・ヒューマンセクシュアリティ ・エビデンスに基づいた助産・女性と家族の助産ケア		【講義】 学修内容を記述整理し考察、文献検討	4 時間
第 4 回	4. 助産師の定義と業務の専門性 ・助産師の定義と関する法律・助産師業務に関する法律		【講義】 学修内容を記述整理し考察	4 時間
第 5 回	5. 助産師の役割と責務、助産師に求められる能力 ・助産師のコア・コンピテンシー		【講義・演習】 学修内容を記述整理し考察	4 時間
第 6 回	6. 助産学を構成する理論および助産師を支える理論と研究 ・助産実践を支える理論・助産学における対象理解 ・助産学に関連する学問領域と探究・助産学研究の方法		【演習】 学修内容を記述整理し考察、文献検討	3 時間
第 7 回	7. 助産師として求められる基本的な資質と能力 ・助産に関する専門的知識・助産ケアの基盤となる概念や理論 ・助産ケアの対象、多職種と連携協働のコミュニケーション		【講義・演習】 学修内容を記述整理し考察、文献検討	4 時間
第 8 回	8. 助産師としての生涯発達 ・専門的自律能力・助産学の発展		【講義】 学修内容を記述整理し考察	4 時間
学修評価の方法 基準 ( 割 合 % )	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion 20%、課題レポート 30%、授業修了時の小論文 50%、学修内容はループリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他の授業との関連	「母性看護・助産学特論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ・Ⅱ」「看護学特別研究」に連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履 修 上 の 留 意 点	助産学概論の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オ フ ィ ス ア ワ ー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子 (助産師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産文化・国際論 [Midwifery Culture/International Theory]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、小笠原 百恵、 大原 良子、吉野 八重、谷口 初美	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 15 時 間		●	
授 業 形 態	講 義 ・ 演 習		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、5	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>日本の助産と出産の変遷および諸外国の助産と出産の変遷について学び自らの考えを深め、多様な文化的背景を持つ女性とその家族の理解ならびに国際社会における周産期医療の現状と課題、母子保健活動における課題について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における助産と出産の変遷について記述し説明できる。</li> <li>2. 諸外国の助産と出産の変遷について記述し説明できる。</li> <li>3. 多様な文化における妊娠・出産・育児、社会資源について説明できる。</li> <li>4. 多様な文化的背景と助産の特性について自らの考えを述べ討論できる。</li> <li>5. 国際社会における周産期医療の現状と課題、助産師の責務の説明ができる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間
第 1 回	1. 日本と諸外国における助産と出産の変遷 【講義】(松村) ・日本の古代から江戸時代まで ・明治から現代まで ・諸外国の17世紀まで ・18～19世紀 ・20～21世紀		学修内容考察、 文献検討・先行研究 の探索	4 時間
第 2 回	2. 助産と出産と文化 【講義】(小笠原) ・多様な文化における助産・日本の産育(助産)習俗 ・多様な文化における妊娠・出産・育児		学修内容考察、 文献検討・先行研究 の探索	4 時間
第 3 回	3. オーストラリアの助産・出産文化 【講義・演習】(大原)		学修内容考察、 文献検討	3 時間
第 4 回	4. オーストラリアの助産師教育と助産師活動 【講義】(大原)		学修内容考察、 文献検討	4 時間
第 5 回	5. 国際社会におけるリプロダクティブヘルス/ライツの現状と課題における 助産師の役割 【講義・演習】(吉野)		学修内容を記述整理 し考察	4 時間
第 6 回	6. リプロダクティブヘルス/ライツと国際社会における周産期医療の現状と 母子保健活動 【講義】(吉野)		学修内容考察、 文献検討	3 時間
第 7 回	7. 世界の助産と出産、母子保健の現状と課題 【講義】(谷口)		学修内容考察、 文献検討	4 時間
第 8 回	8. 国際助産師連盟(ICM)の設立 【講義・演習】(谷口) ・世界の助産師の活動 ・日本の助産師の海外活動		学修内容考察、 文献検討	4 時間
学修評価の方法 基準(割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion 25%、単元毎の課題レポート 25%、授業終了時小論文 50%、学修内容はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他の授業との関連	「助産学概論」「助産学概論」「母性看護・助産学特論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ・Ⅱ」「看護学特別研究」に連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 最新版 助産学講座Ⅰ 基礎助産学[1] 助産学概論 医学書院 最新版			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履修上の留意点	助産文化・国際論に関する知識や理論に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)、小笠原 百恵(助産師)、大原 良子(助産師)、吉野 八重(助産師)、 谷口 初美(助産師)			

授業科目名 [英文表記]	助産教育論 [Midwifery Education Theory]	担当教員名	◎松村 恵子	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	1単位・15時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1, 4	ディプロマ・ ポリシー番号	1, 4	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>日本における助産師教育の変遷、助産師教育のカリキュラムの変遷について学び、諸外国における助産師教育と比較検討し、これからの助産師教育について自らの考えを育み、助産師の生涯教育における課題について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における助産師教育の変遷について説明できる。</li> <li>2. 日本におけるカリキュラムの変遷について記述整理し説明できる。</li> <li>3. 日本におけるカリキュラムの変遷と社会の要請について presentation できる。</li> <li>4. 諸外国における助産師教育とその特徴について説明できる。</li> <li>5. 時代の変化、社会の要請に対応する助産師教育について自らの考えを述べられる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	1. 日本における助産師教育の変遷 ・助産師教育の萌芽から確立へ ・産婆教育から助産師教育へ	【講義】	学修内容を記述整理し考察	4時間
第 2 回	2. 助産師教育のカリキュラムの変遷	【演習】	学修内容を記述整理し考察、文献検討・	16時間
第 3 回	・課題①第1次改正と第2次改正について		先行研究の探索	
第 4 回	・課題②第3次改正と第4次改正について			
第 5 回	・課題②第4次改正と第6次改正について ・討論「改正次のカリキュラムの特徴と今後の展望」			
第 6 回	3. 諸外国における助産師教育とその特徴 ・国際助産師連盟(ICM)と助産師教育の世界基準 ・ドイツ、オランダ、イギリス、アメリカ、ニュージーランド等諸外国における助産師教育	【講義・演習】	学修内容を記述整理し考察、文献検討・先行研究の探索	4時間
第 7 回	4. 助産師の生涯教育	【講義】	学修内容を記述整理し考察、文献検討・	6時間
第 8 回	・時代の変化に、社会の要請に対応する助産師教育とは ・助産師のコア・コンピテンシーと教育 ・助産師のキャリア発達・開発と助産実践能力習熟段階		先行研究の探索	
学修評価の方法 基準(割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion 20%、課題レポート 30%、授業終了時の小論文 50%、学修内容はループリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他の授業との関連	「助産学概論」「母性看護・助産学特論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ・Ⅱ」に連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履修上の留意点	助産教育論の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母子家族論 [Mother and Child Family Theory]	担 当 教 員 名	◎小笠原 百恵	
期 間	1 年 ( 通 年 )	履 修 学 年	1	1、2、5
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 15 時 間		●	
授 業 形 態	講 義		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>母と子、父と子の関係を中心に、家族の形成プロセスを学び、現代の家族関係について自らの考えを深める。現在の母子を取り巻く環境や家族の多様性を理解し、母子を中心とした家族支援のあり方や課題について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子関係、父子関係の形成について、説明することができる。</li> <li>2. 夫婦関係と子どもの発達について、説明することができる。</li> <li>3. 家族の機能と役割やその変化について、述べるができる。</li> <li>4. 現代の家族関係における多様なニーズを把握し、子どもとその家族への支援について述べるができる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間
第 1 回	家族と社会 ・ 家族の機能と役割、家族の発達課題	【講義】(小笠原)	学修内容から考察を記述。	4 時間
第 2 回	家族関係の発達と課題 ・ 母子関係の形成と課題、父子関係の形成と課題	【講義】(小笠原)	プレゼンテーション資料を作成し、実施。	4 時間
第 3 回	家族関係の発達と課題 ・ 子どもの発達と親子の関係	【講義】(小笠原)	プレゼンテーション資料を作成し、実施。	4 時間
第 4 回	家族関係の発達と課題 ・ 夫婦関係の形成と発達、夫婦関係と個人の病理	【講義】(小笠原)	プレゼンテーション資料を作成し、実施。	4 時間
第 5 回	家族関係の発達と課題 ・ 母子関係の病理、父親のメンタルヘルスと家族へのリスク	【講義】(小笠原)	学修内容から考察を記述。	3 時間
第 6 回	家族関係の発達と課題 ・ 家族内サブシステムと地域のなかの家族	【講義】(小笠原)	学習内容から考察を記述。	3 時間
第 7 回	母親と社会 ・ 母親と社会、父親と社会、現代における多様な「親」のあり方	【講義】(小笠原)	課題レポート作成し提出。	4 時間
第 8 回	子どもと社会 ・ 社会のなかの子ども、現代日本の子ども	【講義】(小笠原)	課題レポート作成し提出。	4 時間
学修評価の方法 基準 ( 割 合 % )	主体的に取り組む姿勢、討論の内容が知識や理論に基づいているかどうかはプレゼンテーション内容を評価基準に基づいて評価します (40%)。授業終了時のレポート課題で、総合的な評価を行います (60%)。			
フィードバックの方法	学修過程における目標達成状況は、提出されるレポート課題の記述内容、プレゼンテーションの内容で確認します。プレゼンテーションで示される学修内容は、授業において全員にその傾向と課題をフィードバックします。適宜、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に提示して説明します。			
他の授業との関連	親と子を中心とした家族間の関係性や、家族の発達についての知識は、助産診断を行うための重要な基盤になります。「助産診断・技術学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」や「助産診断・技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に連動するため、継続的に学修を積み重ねましょう。			
テ キ ス ト	助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学、医学書院 最新版 その他は、講義時に適宜提示する。			
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。			
履修上の留意点	現代社会の母子とそれを取り巻く家族の支援を考える授業です。新聞記事や雑誌、様々な図書などから情報収集を行い、現在の母子を取り巻く状況についての問題意識を高め、解決に向けた支援について考えを深めていきましょう。			
オフィスパワー	研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。			
実務経験のある教員	小笠原 百恵 (助産師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	母子保健行政論 [Maternal and Child Health Administration Theory]	担 当 教 員 名	◎尾筋 淑子	
期 間	1 年 ( 通 年 )	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 15 時 間		●	
授 業 形 態	講 義 ・ 演 習		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	4, 5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>母子保健の歴史や、地域母子保健行政の体系、母子およびその家族の健康を増進する保健政策の現状課題の明確化、母子保健の動向と基礎整備について理解し今後の方向性について学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <p>1. 母子保健の変遷が説明できる。</p> <p>2. 主要な母子保健指標の現状とその推移が説明できる。</p> <p>3. 母子およびその家族の健康を増進する保健施策の現状課題について記述でき説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間	
第 1 回	1. 母子保健の動向 ①母子保健の歴史	【講義】 テキストの予習	3 時間	
第 2 回	2. 母子保健の現状と動向 ①統計資料の分析	【演習】 学修内容の復習	4 時間	
第 3 回	3. 母子保健の現状と動向 ②母子保健をめぐる諸問題と課題	【演習】 学修内容の復習	4 時間	
第 4 回	4. 地域母子保健行政の体系 ①わが国の母子保健行政 ・ 母子保健行政の進展 ・ 母子保健関係法規 ・ 国 ・ 都道府県 ・ 市町村の役割	【講義】 テキストの予習、学修内容の復習	4 時間	
第 5 回	5. 地域母子保健行政の体系 ②わが国のおもな母子保健制度 ・ 母子保健制度の概要 ・ 健康診査 ・ 保健指導 ・ 療護支援 ・ 医療対策 ・ 予防接種 ・ 不妊に対する相談と治療費助成 ・ ひとり親家庭の支援 ・ 職域における母子保健 ・ 女性保護	【講義】 学修内容の復習	4 時間	
第 6 回	6. わが国の母子保健施策 ①健康日本21と健やか親子21	【講義】 学修内容の復習	3 時間	
第 7 回	7. わが国の母子保健施策 ②少子化社会対策と次世代育成支援対策推進法	【講義】 学修内容の復習	3 時間	
第 8 回	8. 母子保健施策の現状と課題	【演習】 院生 これまでの学修内容を統合し、 母子保健施策についての現状 と課題について、記述しプレ ゼンテーションを行う。	5 時間	
学修評価の方法 基準 ( 割 合 % )	定期試験 ( 80% )、主体的に課題に取り組む姿勢、討論の内容 プレゼンテーション ( 20% ) はループリッ ク評価とします。			
フィードバックの 方 法	定期試験の結果により、必要に応じて課題を提示します。プレゼンテーションについては、口頭でフィード バックします。			
他の授業との関連	助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
テ キ ス ト	助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 最新版 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 最新版			
参 考 図 書	我が国の母子保健、母子保健の主なる統計、国民衛生の動向			
履修上の留意点	社会の母子保健の動向について関心のある資料を収集して授業に参加すること。 母子保健の主なる統計、国民衛生の動向を活用し必要なデータを収集すること。			
オフィスアワー	研究室在室時、所用や来訪者がいなければいつでも対応します。不在時は y.osuji@kki.ac.jp まで連絡して ください。			
実務経験のある教員	尾筋 淑子 ( 助産師 )			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産診断・技術学特論 I (妊娠期) [Advanced Midwifery Diagnosis and Technology I] (Pregnancy Period)	担 当 教 員 名	◎神谷 映里、松村 恵子、 金西 賢治	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 30 時 間		●	
授 業 形 態	講 義		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	2	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>妊娠期の母子および家族に必要なケアを提供するための、妊娠の生理、心理的特性等の基礎的な知識を学修する。妊娠期における正常からの逸脱徴候のアセスメント・合併症妊娠を含むハイリスク妊娠の診断・検査・治療(薬剤・手術)について学修する。また、胎児の健康状態把握に必要な超音波断層法の基礎的な知識、分娩監視装置の基礎的なデータ判読について学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の定義、妊娠の早期診断、妊娠の維持について説明できる。</li> <li>2. 妊婦の身体的特徴・変化、心理的特徴が説明できる。</li> <li>3. 胎児の発育・健康状態について説明できる。</li> <li>4. 妊娠に関連した検査について説明できる。</li> <li>5. ハイリスク妊娠、妊娠の異常について説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準 備 学 修) の 内 容	日 標 時 間
第 1 回	助産過程、助産診断学、助産技術学の基盤及び概念と定義 【講義】(松村)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 2 回	助産診断学、助産技術学の理論構築 妊娠の定義、成立、妊娠の早期診断 胎児の発育と胎児付属物 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 3 回	妊娠に伴う全身の変化 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 4 回	妊娠中の全身の変化に伴うマイナートラブル 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 5 回	妊娠の日常生活におけるケア 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 6 回	妊娠の心理・社会的側面、妊娠経過に対応したケア 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 7 回	妊娠に関連した検査(1) 検体検査 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 8 回	妊娠に関連した検査(2) 分娩監視装置 胎児心拍モニタリング 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 9 回	妊娠に関連した検査(3) 超音波検査の基礎 【講義】(神谷)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 10 回	妊娠に関連した検査(4) 胎児超音波検査 【講義】(神谷)		DVD 視聴による知識の確認 テキスト、資料の復習	1 時間
第 11 回	母子感染リスクのある妊婦への支援 【講義】(神谷)		DVD 視聴による知識の確認 テキスト、資料の復習	1 時間
第 12 回	妊娠期の異常(1) 【講義】(金西)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 13 回	妊娠期の異常(2) 【講義】(金西)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 14 回	ハイリスク妊娠・合併症妊娠 【講義】(金西)		テキスト、資料の復習	1 時間
第 15 回	周産期に用いる薬物 妊娠期に行われる産科手術 【講義】(金西)		テキスト、資料の復習	1 時間
学修評価の方法 基準(割合%)	課題 10% (神谷) はルーブリック評価とします。 小テスト 30% (神谷)、定期試験 60% (神谷・金西) は解答例に基づいて評価します。			
フィードバックの 方法	毎回の講義終了後、自己の復習後に理解できた事、できなかった事をシャトルカードに記入してください。 このカードを基に追加解説等をいたします。			
他の授業との関連	生殖機能論、助産診断・技術学演習 I (妊娠期)			
テ キ ス ト	助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期 医学書院 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 目で見える妊娠と出産 馬場一憲 文光堂			
参 考 図 書	授業の中で適宜提示する。			
履修上の留意点	妊娠期の母子および家族に必要なケアを提供するための基礎的な科目です。助産診断・技術学演習 I (妊娠期) につながるので予習・復習をして理解していきましょう。			
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は < e.kamiya@kki.ac.jp > に連絡ください。			
実務経験のある教員	神谷 映里 (助産師)、松村 恵子 (助産師)、金西 賢治 (医師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産診断・技術学演習 I (妊娠期) [Midwifery Diagnosis/Technology Exercise I] (Pregnancy Period)	担 当 教 員 名	◎尾筋 淑子、神谷 映里、 永峰 啓子	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 60 時 間		●	
授 業 形 態	講 義 ・ 演 習		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>妊娠経過における妊婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産診断、助産過程の展開、妊婦健康診査の技術、正常経過を維持できるための日常生活への援助技術および個人・集団への健康教育を学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <p>1. 妊娠経過における妊婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産診断、助産過程の展開を記述し説明できる。</p> <p>2. 妊婦健康診査の技術、正常経過を維持できるための日常生活への援助技術が実施できる。</p> <p>3. 個人・集団への健康教育の企画、実施、評価ができる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間
第 1 回	1. 助産診断学の概要 ・ 診断の定義と意義 ・ 助産診断の範囲 ・ 助産診断類型 ・ 助産診断の分類 ・ 助産診断の過程 診断医必要な能力 ・ 診断に関する問題点	【講義】(尾筋)	学修内容を整理し、 記述する。	1 時間
第 2 回	2. 妊娠期の助産診断 ・ 妊娠期の助産診断の特徴と診断類型	【講義】(尾筋)		1 時間
第 3 回	3. 妊娠期の助産診断 ・ 妊娠期の助産診断の特徴と診断類型	【講義】(尾筋)		1 時間
第 4 回	4. 妊娠期の助産診断 ・ 事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案を行う	【演習】(尾筋)	学修内容から考察を 記述し課題レポートを 提出。	1 時間
第 5 回	5. 妊娠期の助産診断 ・ 事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案を行う	【演習】(尾筋)		1 時間
第 6 回	6. 妊娠期のフィジカルアセスメント ・ 妊婦の定期健康診査に必要な技術(初期)	【演習】(尾筋・永峰)	演習内容の復習	1 時間
第 7 回	7. 妊娠期のフィジカルアセスメント ・ 妊婦の定期健康診査に必要な技術(中期)	【演習】(尾筋・永峰)	演習内容の復習	1 時間
第 8 回	8. 妊娠期のフィジカルアセスメント ・ 妊婦の定期健康診査に必要な技術(後期)	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 9 回	9. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦の支援 ・ ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のケア	【講義】(神谷)	テキストの予習・復習	1 時間
第 10 回	10. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦の支援 ・ ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のケア	【講義】(神谷)		1 時間
第 11 回	11. 周産期に用いられる検査法 ①超音波診断 ・ 超音波の基本	【演習】(神谷)	テキストの予習・復習	1 時間
第 12 回	12. 周産期に用いられる検査法 ②妊娠中・後期の超音波診断	【演習】(神谷)		1 時間
第 13 回	13. 相談・教育活動	【講義】(尾筋)	学修内容の復習	1 時間
第 14 回	14. 健康教育の実際 ・ 事例への保健指導の計画 ・ 資料作成	【演習】(尾筋)	授業内容に関する記 録、資料の作成	1 時間
第 15 回	15. 健康教育の実際 ・ 事例への保健指導の計画 ・ 資料作成	【演習】(尾筋)	授業内容に関する記 録、資料の作成	1 時間
第 16 回	16. 健康教育の実際 ・ 模擬妊婦への保健指導	【演習】(尾筋・永峰)	保健指導計画、資 料をもとに健康教育 の実施	1 時間
第 17 回	17. 健康教育の実際 ・ 模擬妊婦への保健指導	【演習】(尾筋・永峰)	保健指導計画、資 料をもとに健康教育 の実施	1 時間
第 18 回	18. 健康教育の実際	【講義】(尾筋)	学修内容の復習	1 時間
第 19 回	19. 集団指導	【講義】(尾筋)	学修内容の復習	1 時間
第 20 回	20. 出産準備教育 ・ 両親学級の企画・計画	【演習】(尾筋)	出産準備教育におけ る両親学級の企画 書・計画書の作成	1 時間
第 21 回	21. 出産準備教育 ・ 両親学級の企画・計画	【演習】(尾筋)		1 時間
第 22 回	22. 出産準備教育 ・ 両親学級の企画・計画	【演習】(尾筋)		1 時間
第 23 回	23. 出産準備教育 ・ 両親学級の企画・計画	【演習】(尾筋)		1 時間

第 24 回	24. 出産準備教育 出産準備教育の企画とデモンストレーション	【演習】(尾筋・永峰)	出産準備教育の両親学級のデモンストレーションを行う。  妊娠期の健康診査に必要な技術チェックを行う。	1 時間
第 25 回	25. 出産準備教育 出産準備教育の企画とデモンストレーション	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 26 回	26. 出産準備教育 出産準備教育の企画とデモンストレーション	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 27 回	27. 出産準備教育 出産準備教育の企画とデモンストレーション	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 28 回	28. 妊娠期のフィジカルアセスメント ・妊娠期の健康診査に必要な技術チェック	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 29 回	29. 妊娠期のフィジカルアセスメント ・妊娠期の健康診査に必要な技術チェック	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 30 回	30. 妊娠期のフィジカルアセスメント ・妊娠期の健康診査に必要な技術チェック	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
学修評価の方法 基準(割合%)	課題レポート 60% とプレゼンテーション 20% はルーブリック評価とします。実技試験 20% は評価表に基づいて評価します。			
フィードバックの方法	課題レポート、プレゼンテーション、実技試験は口頭および文書にてフィードバックします。			
他の授業 との関連	助産診断技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			
テキスト	助産学講座 3、基礎助産学 [3] 母子の健康科学 医学書院 最新版 助産学講座 5、助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 最新版 助産学講座 6、助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期、医学書院 最新版 青木康子、実践マタニティ診断、医学書院 最新版 進 純郎他、助産師外来の健診技術、医学書院 最新版 我部山キヨ子他、助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第 4 巻、妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦のケア、日本看護協会出版会 最新版			
参考図書	授業の中で適宜提示する。			
履修上の留意点	演習Ⅰでは、妊娠期の助産過程を展開するため助産診断技術学特論Ⅰの学習内容を復習し、学んだ知識がすぐに活用できるよう整理したうえで臨みましょう。			
オフィスアワー	研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。不在時は y.osuji@kki.ac.jp まで連絡をしてください。			
実務経験のある教員	尾筋 淑子(助産師)、神谷 映里(助産師)、永峰 啓子(助産師)			

授業科目名 [英文表記]	助産診断・技術学特論Ⅱ [Advanced Midwifery Diagnosis /Technology Exercise II] (Calving Period)	担当教員名	◎尾筋 淑子、永峰 啓子、 渋川 敏彦	
期 間	1年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	1単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	2	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 分娩の機序、分娩の3要素、分娩による産婦や胎児へ及ぼす影響、分娩経過に応じた助産診断・助産ケアおよびローリスクからハイリスクへの予測と予防について学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 分娩の機序、分娩の3要素、分娩による産婦や胎児へ及ぼす影響が記述し説明できる。 2. 分娩経過に応じた助産診断・助産ケアが記述し説明できる。 3. ローリスクからハイリスクへの予測と予防について記述し説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	目標時間	
第 1 回	1. 分娩の生理 【講義】(尾筋) ・分娩に関する定義と種類 ・分娩の3要素 ・分娩が母体・胎児に及ぼす影響	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 2 回	2. 分娩期の助産診断 【講義】(尾筋) ・分娩期の助産診断の特徴と診断類型 ・分娩時のフィジカルアセスメント	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 3 回	3. 分娩期の助産診断 【講義】(尾筋) ・分娩期のフィジカルアセスメント	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 4 回	4. 分娩期の心理・社会的変化 【講義】(尾筋)	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 5 回	5. 分娩介助法 【講義】(永峰) ・分娩介助の目標と準備・正常分娩介助法の実際	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 6 回	6. 分娩介助法 【講義】(永峰) ・分娩体位による介助法 ・胎児付属物と計測	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 7 回	7. 産婦への支援 【講義】(永峰) ・産婦への支援の基本	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 8 回	8. 分娩経過に沿ったケア 【講義】(永峰) ・分娩進行に伴う観察・アセスメント ・時期ごとの特徴を踏まえたケア	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 9 回	9. 分娩期の異常・偶発疾患 【講義】(尾筋) ・分娩の3要素の異常	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 10 回	10. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 【講義】(尾筋) ・ハイリスク・異常分娩時のアセスメント ・ハイリスク・異常分娩時の産婦への支援	テキストの予習・学修内容の復習	1時間	
第 11 ~ 15 回	分娩期の異常・偶発疾患 【講義】(渋川) ・分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症 ・産科手術および産科的医療処置 ・産科手術および産科的医療処置の各論 ・産科麻酔	テキストの予習・学修内容の復習	5時間	
学修評価の方法 基準(割合%)	定期試験80%、課題20%ルーブリック評価とします。			
フィードバックの 方 法	定期試験は結果により、必要に応じて個々に課題を提示します。課題は、口頭、文書にてフィードバックします。			
他の授業との関連	助産診断・技術学特論Ⅰ、助産診断・技術学演習Ⅰ助産診断・技術学演習Ⅱ、助産診断・技術学特論Ⅲ、助産診断・技術学演習Ⅲ、助産学実習			
テ キ ス ト	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 最新版 教員の連絡先:y.osuji@kki.ac.jp			
参 考 図 書	進 純郎他、基本分娩介助学、医学書院 最新版			
履修上の留意点	助産技術習得のために必要な知識であるため学習の積み重ねが重要。 実習で活用するために自己学習ノートを作成する。			
オフィスアワー	研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。不在時は y.osuji@kki.ac.jp まで連絡してください。			
実務経験のある教員	尾筋 淑子(助産師)、永峰 啓子(助産師)、渋川 敏彦(医師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期） [Midwifery Diagnosis/Technology Exercise II] (Calving Period)	担 当 教 員 名	◎尾筋 淑子、小笠原 百恵、 永峰 啓子		
期 間	1 年（通年）	履 修 学 年	1	2	
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 60 時 間		●		
授 業 形 態	講 義 ・ 演 習		● - 必修・○ - 選択		
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	2	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1.2.3.4.5		
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 分娩経過における産婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産診断、助産過程の展開、分娩介助技術、出生直後の新生児に対するアセスメントとケアについて学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 分娩経過、母子の健康状態に応じた助産診断、助産過程、異常の早期発見と予防について記述し説明できる。 2. 根拠に基づく分娩介助技術が実施できる。 3. 出生直後の新生児のアセスメント、ケアが説明できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間	
第 1 回	1. 分娩期の助産診断 ・事例を用いて、助産診断、助産計画の立案	【演習】(尾筋)	学習課題の作成  学習課題の作成(模 擬事例のアセスマ ントおよび助産計 画の立案) 助産診断・技術学 特論Ⅱ 学習内容の復習  分娩介助技術自己 練習	1 時間	
第 2 回	2. 分娩期の助産診断 ・事例を用いて、助産診断、助産計画の立案	【演習】(尾筋)		1 時間	
第 3 回	3. 分娩期の助産診断 ・事例を用いて、助産診断、助産計画の立案	【演習】(尾筋)		1 時間	
第 4 回	4. 分娩期の助産診断 ・パルトグラムの記載方法	【演習】(尾筋)		1 時間	
第 5 回	5. 出生後 24 時間以内の新生児のアセスメントとケア	【講義】(小笠原)		学習課題の作成(模 擬事例のアセスマ ントおよび助産計 画の立案)	1 時間
第 6 回	6. 分娩介助法 ・分娩介助の目標、準備	【演習】(永峰・尾筋)		助産診断・技術学 特論Ⅱ	1 時間
第 7 回	7. 分娩介助法 ・直接介助法の技術	【演習】(永峰・尾筋)		学習内容の復習	1 時間
第 8 回	8. 分娩介助法 ・直接介助法の技術	【演習】(永峰・尾筋)		分娩介助技術自己 練習	1 時間
第 9 回	9. 分娩介助法 ・直接介助法の技術	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 10 回	10. 分娩介助法 ・直接介助法の技術・間接介助法	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 11 回	11. 分娩介助法 ・直接介助法の技術・間接介助法	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 12 回	12. 分娩介助法	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 13 回	13. 分娩介助法 ・直接介助法の技術・間接介助法	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 14 回	14. 分娩介助法 ・産婦への支援	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 15 回	15. 分娩介助法 ・産婦への支援	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 16 回	16. 分娩介助法 ・内診技術	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 17 回	17. 分娩介助法 ・内診技術	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 18 回	18. 分娩介助法 ・直接介助法・間接介助法・産婦への支援	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 19 回	19. 分娩介助法 ・直接介助法・間接介助法・産婦への支援	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 20 回	20. 分娩介助法 ・直接介助法・間接介助法・産婦への支援	【演習】(永峰・尾筋)			1 時間
第 21 回	21. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 ①ハイリスク・異常分娩時のアセスメント	【講義】(尾筋)		学修内容の復習	1 時間
第 22 回	22. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 ②ハイリスク・異常分娩時の産婦への支援	【講義】(尾筋)			1 時間
第 23 回	23. 救急処置 ・救急措置の実際	【講義】(尾筋)			1 時間

第 24 回	24. 救急措置 ・母体搬送における周産期医療連携	【講義】(尾筋)	学修内容の復習、 練習	1 時間
第 25 回	25. 新生児仮死と新生児蘇生法 (NCPR) ・新生児仮死の病態・評価方法・治療	【講義】(尾筋)		1 時間
第 26 回	26. 新生児の救急蘇生法 (尾筋) ・新生児蘇生の実際	【講義】(尾筋)		1 時間
第 27 回	27. 分娩介助法 ・分娩介助技術チェック	【演習】(永峰・尾筋)		1 時間
第 28 回	28. 分娩介助法 ・分娩介助技術チェック	【演習】(永峰・尾筋)		1 時間
第 29 回	29. 分娩介助法 ・分娩介助技術チェック	【演習】(永峰・尾筋)		1 時間
第 30 回	30. 分娩介助法 ・分娩介助技術チェック	【演習】(永峰・尾筋)		1 時間
学修評価の方法 基準 (割合%)	定期試験 30%、実技試験 40%は客観的臨床能力試験 (OSCE) にて評価、課題レポート 30%はループリッ ク評価とします。			
フィードバックの方法	定期試験の結果に応じて個々に課題を提示、実技試験は客観的臨床能力試験 (OSCE) の結果を口頭で フィードバックします。課題レポートは、文書でフィードバックします。			
他 の 授 業 と の 関 連	助産診断・技術学特論 1、助産診断・技術学演習 I、助産診断・技術学特論 II、助産診断・技術学特論 III、 助産診断・技術学演習 III、助産学実習			
テ キ ス ト	助産学講座 7、助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第 5 巻、分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 最新版 日本助産診断実践学会、実践マタニティ診断第 5 班、医学書院			
参 考 図 書	進純郎他、分娩介助学、医学書院 最新版 進純郎他、正常分娩の助産術、医学書院 最新版 細野茂春 監修、日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト第 4 版、メジカルビュー 社			
履修上の留意点	臨地実習で適用できる段階まで、分娩期の助産診断・助産過程の知識・技術を修得すること。			
オフィスアワー	研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。不在時は y.osuji@kki.ac.jp まで連絡してく ださい。			
実務経験のある教員	尾筋 淑子 (助産師)、小笠原 百恵 (助産師)、永峰 啓子 (助産師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産診断・技術学特論Ⅲ (産褥期・育児支援) [Advanced Midwifery Diagnosis and Technology III] (Postpartum Period/Childcare Support)	担 当 教 員 名	◎尾筋 淑子、小笠原 百恵、 永峰 啓子、森沢 猛	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 30 時 間		●	
授 業 形 態	講 義		● - 必修 ・ ○ - 選択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>育児期の母子と家族に対して、産褥経過に伴う身体的回復の診断、褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦のセルフケア能力を高めるケアを提供するための知識、褥婦の育児に必要な基本的指導、新生児から乳児の発達についてのアセスメント、育児支援及び治療が必要な新生児のケア・診断・治療について学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>産褥経過に伴う身体的回復の診断、褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦のセルフケア能力を高めるケアについて記述し説明できる。</li> <li>褥婦の育児に必要な基本的指導について記述し説明できる。</li> <li>新生児から乳児の発達についてのアセスメント、育児支援について記述し説明できる。</li> <li>治療が必要な新生児のケア・診断・治療について記述し説明できる。</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間
第 1 回	1. 産褥期の生理 ・産褥期の全身の変化と特徴	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 2 回	2. 産褥期の助産診断 ・産褥期の助産診断の特徴と診断類型	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 3 回	3. 産褥期の助産診断 ・産褥期のフィジカルアセスメント	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 4 回	4. 褥婦への支援 ・退行性変化促進の支援	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 5 回	5. 褥婦への支援 ・産後の生活に関する支援	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 6 回	6. 産褥期の異常・偶発疾患	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 7 回	7. ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援 ・ハイリスク・異常因子のアセスメント	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 8 回	8. ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援 ・ハイリスク・異常褥婦への支援	【講義】(尾筋)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 9 回	9. 新生児・乳幼児ケアの基本 ・助産ケアにおける新生児・乳幼児の位置づけ ・児の成長・発達と助産ケア	【講義】(小笠原)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 10 回	10. 新生児のアセスメントとケア ・新生児の適応生理と成長・発達	【講義】(小笠原)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 11 回	11. 正常経過逸脱状態にある新生児の診断	【講義】(小笠原)	提示された事例を基にアセスメントを記述し、整理。課題を作成し提出。	4 時間
第 12 回	12. 早期新生児のアセスメントとケア	【講義】(小笠原)	提示された事例を基にアセスメントを記述し、整理。課題を作成し提出。	4 時間
第 13 回	13. 治療を受ける新生児のアセスメントとケア ・治療を必要とする新生児の評価と支援 ・低出生体重児・早産児のアセスメントとケア	【講義】(永峰)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 14 回	14. 新生児の主な疾患とケア	【講義】(森沢)	学習内容を記述し整理。	4 時間
第 15 回	15. 低出生体重児・早産児のケア	【講義】(森沢)	学習内容を記述し整理。	4 時間
学修評価の方法 基準 ( 割 合 % )	定期試験 80%、課題 20%はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	定期試験は結果によってここに課題を提示します。課題レポートは口頭、文書にてフィードバックします。			
他の授業との関連	助産診断・技術学特論1、助産診断・技術学演習Ⅰ、助産診断・技術学特論Ⅱ、助産診断・技術学演習Ⅱ、助産診断・技術学演習Ⅲ、助産学実習と連動します。			
テ キ ス ト	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳児期、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト 第7巻、ハイリスク妊産褥婦新生児のケア、日本看護協会出版会 最新版			
参 考 図 書	必要時授業中、適宜紹介します。			
履修上の留意点	助産技術習得のために必要な知識であるため学習の積み重ねが重要です。			
オフィスアワー	研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。不在時は y.osuji@kki.ac.jp まで連絡してください。			
実務経験のある教員	尾筋 淑子 ( 助産師 )、小笠原 百恵 ( 助産師 )、永峰 啓子 ( 助産師 )、森沢 猛 ( 医師 )			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	産褥期・技術学演習Ⅲ (産褥期・育児支援) [Midwifery Diagnosis/Technology Exercise III] (Postpartum Period/Childcare Support)	担 当 教 員 名	◎尾筋 淑子、永峰 啓子、 渡邊 和香、谷川 裕子	
期 間	1 年 (通年)	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 60 時 間		●	
授 業 形 態	講 義 ・ 演 習		● - 必 修 ・ ○ - 選 択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[ 授 業 の 概 要 ]</p> <p>産褥期、新生児期における身体的、心理的、社会的側面からの健康状態、異常の早期発見と予防、退行性変化の促進、母乳育児への支援、日常生活への支援、家庭・社会復帰の支援など根拠を踏まえた助産ケアを提供するための基本的技術および新生児の胎外生活への適応を促進するための適切なケアを学修する。</p> <p>[ 学 修 目 標 ]</p> <p>1. 産褥期、新生児期における身体的、心理的、社会的側面からの健康状態、異常の早期発見と予防について記述し実施できる。</p> <p>2. 退行性変化の促進、母乳育児への支援、日常生活への支援について記述し実施できる。</p> <p>3. 家庭・社会復帰への支援について記述し説明できる。</p> <p>4. 新生児のフィジカルイグザミネーションを実施し、適応を促進するケアが実施できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授 業 時 間 外 ( 準 備 学 修 ) の 内 容	目 標 時 間	
第 1 回	1. 産褥期・新生児期の助産診断 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う	【演習】(尾筋)	学修課題記録を記述し提出	1 時間
第 2 回	2. 産褥期・新生児期の助産診断 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う	【演習】(尾筋)		1 時間
第 3 回	3. 産褥期・新生児期の助産診断 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う	【演習】(尾筋)		1 時間
第 4 回	4. 産褥期・新生児期の助産診断 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う	【演習】(尾筋)		1 時間
第 5 回	5. 産褥期のフィジカルアセスメント ・褥婦の健康診査に必要な技術	【演習】(尾筋・永峰)	学修内容の復習	1 時間
第 6 回	6. 産褥期のフィジカルアセスメント ・褥婦の健康診査に必要な技術・技術チェック	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 7 回	7. 新生児のフィジカルイグザミネーション	【演習】(尾筋・永峰)	学修内容の整理・復習	1 時間
第 8 回	8. 新生児のフィジカルイグザミネーション ・呼吸・循環・体温の観察とアセスメント技術チェック	【演習】(永峰・尾筋)		1 時間
第 9 回	9. 褥婦への支援 ①育児行動獲得への支援 ・抱き方・おむつ交換・衣服の着脱・沐浴	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 10 回	10. 褥婦への支援 ①育児行動獲得への支援 ・抱き方・おむつ交換・衣服の着脱 ・沐浴の技術チェック	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 11 回	11. 褥婦への支援 ・退院指導計画、指導案作成、資料作成	【演習】(尾筋)	学修内容の記述、課題作成。	1 時間
第 12 回	12. 褥婦への支援 ・退院指導計画、指導案作成、資料作成	【演習】(尾筋)		1 時間
第 13 回	13. 褥婦への支援 ・退院指導の実施、評価	【演習】(尾筋・永峰)		1 時間
第 14 回 ～ 20 回	・母乳育児支援に関する妊娠中からの適切な授乳技術 ・乳房管理と乳房トラブルへの援助の実際 ・母乳哺育の継続支援 育児不安をもつ母親への支援 卒乳・断乳への援助	【講義・演習】(渡邊)	学修内容の整理、記述	各 1 時間
第 21 回	21. タッチケア：ベビーマッサージ	【演習】(尾筋)		1 時間
第 22 回	22. 乳幼児のアセスメントとケア ・身体成長・発達の評価と支援	【講義・演習】(谷川)	学修内容の整理	1 時間
第 23 回	23. 乳幼児のアセスメントとケア ・乳幼児健康診査	【講義・演習】(谷川)		1 時間
第 24 回	24. 家庭・社会復帰への支援 ・施設演習の計画	【演習】尾筋	学修内容の記述	1 時間
第 25 回	家庭・社会復帰への支援	【施設演習】(渡邊)	施設での参画型演習	1 時間
第 26 回	家庭・社会復帰への支援	【施設演習】(渡邊)		1 時間
第 27 回	家庭・社会復帰への支援	【施設演習】(渡邊)		1 時間
第 28 回	家庭・社会復帰への支援	【施設演習】(渡邊)		1 時間
第 29 回	30. 家庭・社会復帰への支援	【発表等】(院生)	学修内容から考察を記述しプレゼンテーションをし、課題レポートを提出。	1 時間
第 30 回	・施設演習のプレゼンテーション			

学修評価の方法 基準（割合％）	課題レポート 60％はルーブリック評価とします。実技試験 20％は評価表に基づき評価します。プレゼンテーション 20％は、ルーブリック評価とします。
フィードバックの方法	課題は、文書と口頭でフィードバックします。実技試験は口頭でフィードバックします。プレゼンテーションは口頭でフィードバックします。
他の授業 との関連	助産診断・技術学特論Ⅰ、助産診断・技術学演習Ⅰ、助産診断・技術学特論Ⅱ、助産診断・技術学演習Ⅱ、助産診断・技術学特論Ⅲ、助産学実習
テキスト	助産師基礎教育テキスト第6巻、産褥期のケア 新生児期・乳児期のケア、日本看護協会出版会 最新版 助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期、医学書院 最新版
参考図書	必要時、授業中に提示します。
履修上の留意点	臨地実習で適用できる段階まで、分娩期の助産診断・助産過程の知識・技術を修得しましょう。
オフィスアワー	研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。不在時は y.osuji@kki.ac.jp まで連絡してください。
実務経験のある教員	尾筋 淑子（助産師）、永峰 啓子（助産師）、渡邊 和香（助産師）、谷川 裕子（助産師）

授業科目名 [英文表記]	地域母子保健 [Regional Maternal and Child Health]	担当教員名	◎松村 恵子、伊木 智子、 測元 純子	
期 間	1・2年(通年)	履 修 学 年	1	2
単位数・時間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1、4、5	ディプロマ・ ポリシー番号	1、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 地域母子保健の意義、地域概念、地域母子保健活動の基盤となる理論について学び、地域母子保健福祉行政と母子保健統計の動向、諸外国と日本の地域母子保健の分析、地域における子育て世代の包括的支援と助産師の役割について学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 地域母子保健活動の基盤となる概念・理論について説明できる。 2. 地域母子保健福祉行政について記述整理し説明できる。 3. 諸外国と日本の地域母子保健について記述整理し presentation できる。 4. 地域母子保健活動における助産師の役割について説明できる。 5. 地域における子育て世代包括支援・母子健康包括支援について説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	目標時間	
第 1 回	1. 地域母子保健活動の意義 【講義】(松村) ・地域概念・母子保健概念・母子の健康に関わる因子	学修内容の記述整理・考察	4時間	
第 2 回	2. 母子保健の現状と保健統計の動向と課題 【講義】(松村)	文献検討	同 上	
第 3 回	3. 地域母子保健活動の基盤 【講義】(測元) ・関係機関との連携・地域母子保健ニーズの把握と施策	学修内容の記述整理・考察	4時間	
第 4 回	4. 地域母子保健活動の展開 【講義】(測元) ・女性のライフサイクルへの支援・活動展開の場と特徴	学修内容の記述整理・考察	同 上	
第 5 回	5. 地域母子保健活動における理論と実際【講義・演習】(測元) ・妊産婦訪問指導・新生児訪問指導・褥婦訪問指導	学修内容の記述整理・考察	同 上	
第 6 回	6. 地域組織活動・子育て支援活動・地域相談活動 【講義】(測元)	文献検討	同 上	
第 7 回	7. 地域で働く行政の助産師の産後ケアの展開 【講義】(測元)	同上	同 上	
第 8 回	8. 母子保健活動展開のための多職種間の連携 【講義】(測元)	同上	同 上	
第 9 回	9. 母子保健活動における連携と協働 【講義】(伊木) ・市町村のおもな母子保健福祉業務の実際	学修内容の記述整理・考察	4時間	
第 10 回	10. 子育て世代包括支援・母子健康包括支援【講義・演習】(伊木)	文献検討	同 上	
第 11 回	11. 母子保健行政・母子保健サービスの実際 【講義】(伊木)	同上	同 上	
第 12 回	12. 乳幼児健診の実際・4か月健康診査 【講義・演習】(伊木)	同上	同 上	
第 13 回	13. 日本における地域母子保健の現状と課題 【演習】(松村)	同上	同 上	
第 14 回	14. 諸外国と日本の地域母子保健の分析 【演習】(松村)	同上	同 上	
第 15 回	15. 地域母子保健に関する学修成果の presentation 【演習】(松村)	学修成果記述	同 上	
学修評価の方法 基準(割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion30%、授業修了時の学修成果に基づく小論文70%、学修内容はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他の授業との関連	「地域母子保健行政論」「助産学概論」「助産学概論」「母性看護・助産学特論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ・Ⅱ」「看護学特別研究」に連動します。			
テ キ ス ト	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 助産学講座 医学書院 最新版			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履修上の留意点	地域母子保健の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究の姿勢を育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)、伊木 智子(保健師)、測元 純子(助産師)			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産管理 [Midwifery Management]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、松尾 真璃、真鍋 由紀子、 岡本 ゆり、渋川 あゆみ、谷川 裕子	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間		●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択	
カ リ キ ュ ラ ム ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>助産管理の基本と助産業務管理の方法、関係法規と助産師の義務と責任、周産期における医療の質と安全、災害対策、助産所・診療所・病院における助産業務管理と運営、日本の周産期医療におけるシステム体制整備と助産師の役割について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 助産管理と助産業務管理について記述整理し説明できる。  2. 助産管理における関係法規と助産師の義務と責任について記述整理できる。  3. 周産期における医療の質と安全、災害対策、システムの整備について説明できる。  4. 助産所、診療所、病院における助産業務管理と運営について説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間
第 1 回	1. 助産管理の基本と助産業務管理 【講義】(松村) ・助産管理と助産業務管理 ・組織の目標管理と実践プロセス		学修内容の記述整理・ 考察	4 時間
第 2 回	2. 助産業務管理の方法 【講義・演習】(松村) ・組織、書類、財務、業務の質管理 ・多職種、地域との連携		学修内容の記述整理・ 考察	同 上
第 3 回	3. 関係法規と助産師の義務と責任 【講義・演習】(松村) ・関係法規<医療法、保助看法、医薬品や医療機器等の品質と有効性及び安全性の確保等に関する法律、戸籍法、刑法等> ・助産師の法的責任と義務		学修内容の記述整理・ 考察 文献検討	同 上
第 4 回	4. 周産期における医療の質と安全 【講義・演習】(松村) ・周産期医療体制、ネットワーク ・周産期医療システム		学修内容の記述整理・ 考察	同 上
第 5 回	5. 助産に関する医療安全と危機管理 【講義・演習】(松村) ・周産期棟と混合病棟、助産師外来と院内助産における管理		学修内容の記述整理・ 考察	同 上
第 6 回	6. 助産所における東洋医学の助産ケア 【講義・演習】(松尾)		文献検討	同 上
第 7 回	7. 東洋医学の意義と助産実践における効用 【講義・演習】(松尾)		同上	同 上
第 8 回	8. 助産所における助産業務管理 【講義】(真鍋)		同上	同 上
第 9 回	9. 助産所での管理と運営、管理に関する法規 【講義・演習】(真鍋)		同上	同 上
第 10 回	10. 病院における助産業務管理 【講義・演習】(岡本)		同上	同 上
第 11 回	11. 病院における管理と運営、管理に関する法規 【講義】(岡本)		同上	同 上
第 12 回	12. 診療所における助産業務管理 【講義・演習】(渋川)		同上	同 上
第 13 回	13. 診療所の管理と運営、管理に関する法規 【講義】(渋川)		同上	同 上
第 14 回	14. 助産師が行う医療安全と災害対策 【講義・演習】(谷川)		同上	同 上
第 15 回	15. 災害対策、妊産褥婦と新生児と家族の管理 【講義】(谷川)		同上	同 上
学修評価の方法 基準（割合％）	主体的に課題に取り組む姿勢と知識や理論に基づいた presentation & discussion20%、課題レポート 10%、授業修了時の小論文 70%、学修内容はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他の授業との関連	「助産管理実習」「母性看護・助産学セミナー」「看護学特別研究」に連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会最新版 助産学講座10 助産管理 医学書院 最新版			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、授業中に紹介します。			
履修上の留意点	助産管理の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。			
オフィスアワー	在室時は来訪者等の状況で調整し対応、不在時は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、松尾 真璃（助産師）、真鍋 由紀子（助産師）、岡本 ゆり（助産師）、 渋川 あゆみ（助産師）、谷川 裕子（助産師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産学実習 [Midwifery Practicum]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、尾筋 淑子、 神谷 映里、小笠原 百恵、 永峰 啓子	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	11単位：495時間		●	
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 分娩開始となった事例を受け持ち、妊娠期・分娩期に関する助産診断を行い分娩進行に応じて適切な助産技法を活用し支援する。母子ともに安全でかつ女性とその家族が納得いく出産体験となり、女性の自然の力を最大限に発揮できるような助産ケアを習得する。 継続事例は妊娠期から育児期まで経過にあわせた助産診断と助産ケアを行い支援する。</p> <p>[学修目標] 1. 妊娠期・分娩期の助産診断を行い、分娩進行に応じた適切な助産技法を活用できる。 2. 母子ともに安全で、女性とその家族が納得いく助産体験となる助産ケアを実施できる。 3. 継続事例の妊娠期から育児期までの助産診断を行い、助産ケアを実施できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間	
実 習 計 画	<p><b>【分娩介助実習の概要】</b> 分娩介助事例は、基本的にローリスクの経過をたどる分娩第1期から第4期までの産婦を受け持ち、経陰分娩の分娩介助、退院するまでの早期産褥期の母子とその家族に必要な支援を修得する。 ・分娩介助1例～3例では、基礎的知識・技術の確認をしながら、助産診断・助産計画を立案、産婦へのケア、分娩介助を行い、行った援助について原則や安全性から評価を行う。 ・分娩介助4～7例では、技術の根拠を確認しながら、分娩経過予測診断を行い、修正を指導の下実施する。 ・分娩介助8例目以降では、技術の修得を目指しながら、個別性のある助産診断・経過診断を行い、産婦の希望を取り入れたケアを実施する。産婦の主体性・満足度・安全・安心・安楽な助産診断・助産計画も目標達成の視点、適切性の評価を行う。</p> <p><b>【継続事例実習の概要】</b> 継続事例は、妊娠中期から分娩期、産褥期、育児期4か月程度を受け持ち、全期間を通して助産診断・助産計画を立て助産ケアを実施し、母子とその家族に必要な支援を修得する。</p> <p>[妊娠期] ・妊婦健康診査、妊娠期の保健指導の実施 ・分娩前健康教育（個別、集団指導）の実施 ・バースプランの確認 ・個別性を考慮した助産診断・助産計画の目標達成の視点、助産判断の適切性の評価を行う。</p> <p>[分娩期] ・分娩介助を行い、産婦の主体性、満足度、安心、安全、安楽を考えた助産診断・助産計画の目標達成の視点、助産判断の適切性の評価を行う。</p> <p>[産褥期] ・産褥早期の母子のケアの実施 ・保健指導・退院指導の実施 ・産後健康診査の実施 ・個別性を考慮した助産診断・助産計画の目標達成の視点、助産判断の適切性の評価を行う。</p> <p>[育児期] ・乳児健診の実施 ・家庭訪問の実施 ・個別性を考慮した助産診断・助産計画の目標達成の視点、助産判断の適切性の評価を行う。</p>		<p>分娩介助事例はローリスクの産婦を受け持ち、分娩介助、退院するまでの早期産褥期の母子とその家族に必要な支援を行う。学修内容を整理、記述し学修内容から考察を記述して、課題レポートを提出する。</p> <p>継続事例は、妊娠期から分娩期・産褥期・児が生後4か月近くに至るまで通して受け持ち、助産診断、助産計画を立案し支援を行う。学修内容を整理、記述し考察を記述し課題レポートを提出する。</p>	学修目標の達成状況に照らし合わせ適宜設定
学修評価の方法 基準（割合％）	分娩介助実習評価70％は、一例毎に助産学実習における分娩各期における基礎的な助産実践能力の到達度評価表の基準に基づいて評価します。1～3例、4～7例、8～10例毎に助産師学生の助産学実習到達目標の基準に基づいて評価します。課題レポート30％はルーブリック評価とします。			
フィードバックの方法	分娩介助実習評価は、その都度口頭でフィードバックします。学修達成度度により個々に課題を提示します。課題レポートは文書にてフィードバックします。			
他の授業との関連	助産診断・技術学特論Ⅰ、助産診断・技術学演習Ⅰ、助産診断・技術学特論Ⅱ、助産診断・技術学演習Ⅱ、助産診断・技術学特論Ⅲ、助産診断・技術学演習Ⅲ、助産管理、母性看護・助産学演習Ⅱ			

テ キ ス ト	必要時適宜提示します。
参 考 図 書	必要時適宜提示します。
履修上の留意点	助産診断・技術学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、助産診断・技術学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび分娩介助法の実技試験が合格していることが必須です。 実習期間が長期にわたるため自己の健康管理に留意して実習に臨みましょう。 施設によって継続事例の妊婦健診や家庭訪問は教員が担当します。 施設や院生の学修状況によって、分娩介助実習は24時間体制をとる場合があります。
オフィスアワー	臨地においては毎日、実習状況に対応して調整し相談等に応じます。
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、神谷 映里（助産師）、小笠原 百恵（助産師）、 永峰 啓子（助産師）

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	助産管理実習 [Midwifery Management Practicum]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、尾筋 淑子、 永峰 啓子	
期 間	2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	1単位・45時間			●
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1、2、3、4、5	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 助産管理と助産業務管理の実際について、助産院で行われている妊婦健康診査、出産、出産介助、助産ケア、産後の生活や新生児訪問、母乳育児支援、出産準備教室、産後ケアなど、助産院の特徴と母子とその家族の支援、病院との連携、地域との連携と協働、母子の安全システムの実際、助産に関する医療安全と危機管理について学修する。この学修から助産管理・助産業務管理に関する基礎的能力を修得する。</p> <p>[学修目標] 1. 助産管理の基本と助産業務管理の過程の事前学修を深め学修成果を記述できる。 2. 周産期医療体制と地域連携について事前学修を深め学修成果を記述できる。 3. 助産に関する医療安全と危機管理について事前学修を深め学修成果を記述できる。 4. 助産院における助産管理・助産業務管理の実際を記述整理し説明できる。 5. 助産院における安全・安心・安楽な出産環境システムの実際について記述できる。 6. 助産院における助産管理・助産業務管理の実際について、最も関心を深めた現象に焦点を当て分析し目指す助産師像について、自らの考えを具体的に説明できる。 7. 実習目的に照合した学修目標（1～6）の達成度を自己評価と課題を説明できる。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授 業 時 間 外 (準備学修)の内容	目 標 時 間
実 習 計 画	<p><b>【助産所における臨地実習の概要】</b> 助産所における助産管理、助産業務管理の実際に参画して観察し、助産学生として実践可能な助産業務に指導者の監督の下で実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産管理の基本と助産業務管理ならびに周産期医療体制と地域連携</li> <li>・助産院で行われている助産管理・助産業務管理の特性と実際</li> <li>・母子の安全システムの実際、緊急時の対応等、医療安全と危機管理</li> <li>・助産院における安全・安心・安楽な出産環境を提供するシステムの実際</li> <li>・助産院における多職種や地域との連携・協働、退院後の継続ケアの実際</li> <li>・妊婦健康診査と助産ケア、健康教育・学習（出産準備や子育て等）の実際</li> <li>・分娩各期における助産ケアの実際を綿密に観察し助産診断と助産計画立案、助産過程の展開</li> <li>・母児の産褥期の生活における褥婦と新生児のケア、母乳育児支援、母児と家族への支援</li> <li>・助産院で出産した母と子と家族に起こっている現象の観察と分析</li> <li>・助産ガイドラインに基づく母子の安全システムの実際</li> </ul>		<p><b>【助産所における臨地実習の概要】</b>に関する事項について、日々の行動目標を設定し、到達度を自己評価し、学修目標の達成を目指した予習と復習を中心に学修する。</p>	学修目標の達成状況に照らし合わせ適宜設定
学修評価の方法 基準（割合％）	主体的に実習に取り組む姿勢と実習が知識や理論に基づいた助産実践であるかどうか、毎日の実習における言動等の状況、助産管理実習の目的・目標の到達度80%、カンファレンスでの presentation20%、学修到達度は実習評価基準に基づいて評価とします。			
フィードバックの方法	日々の実習における学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に学修課題を提示、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。			
他の授業との関連	「助産管理」「母性看護・助産学演習Ⅰ・Ⅱ」「看護学特別研究」に連動します。			
テ キ ス ト	助産師基礎教育第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会最新版 助産学講座10 助産管理 医学書院 最新版			
参 考 図 書	学修目標達成状況に応じて、必要時、実習中に紹介し提示します。			
履 修 上 の 留 意 点	助産管理実習の目的・目標の達成を目指して学修し、助産管理・助産業務管理について探究心を育て主体的に取り組む研究的姿勢を育てましょう。			
オ フ ィ ス ア ウ ー	臨地において適宜、相談等に対応します。臨地外は k.matsumura@kki.ac.jp に連絡ください。			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、永峰 啓子（助産師）			

授 業 科 目 名 [ 英 文 表 記 ]	看護学特別研究 [Nursing Special Research]	担 当 教 員 名	◎江川 隆子、小平 京子、奥津 文子 松村 恵子、黒江 ゆり子、神谷 千鶴 笠岡 和子、下舞 紀美代、箕浦 洋子 伊木 智子、古川 秀敏、大谷 益子	
期 間	1・2年（通年）	履 修 学 年	1	2
単 位 数 ・ 時 間	6単位・180時間		●	
授 業 形 態	演習		● - 必修・○ - 選択	
カリキュラム・ ポリシー番号	1	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、3、4、5	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>学生が選択した看護分野の研究課題を明らかにし、研究領域の文献レビュー、研究の主要概念の明確化、研究テーマの選択、研究目的・研究概念枠組みの明確化、研究方法の選択を行い、研究計画を立案する。さらに研究計画は中間発表会において発表する。計画を研究倫理委員会に提出し、審査を受ける。審査の承認を経て、研究計画に沿ってデータ収集、結果の分析、考察を行う。この一連の研究プロセスに基づき修士論文を作成し、公聴会を経て論文審査を受けるプロセスを学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究計画書作成できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>研究課題を明確にし、文献レビューができる。</li> <li>研究意義を明確にし、適切な研究方法を選択できる。</li> <li>データ分析方法を決定できる。</li> </ol> </li> <li>研究計画を中間発表会にて発表し、意見と示唆を得て追加修正できる。</li> <li>修正した計画書を研究倫理審査委員会へ提出し倫理審査を受けることができる。</li> <li>研究計画書の審査結果に基づき、必要な修正と追加ができる。</li> <li>研究計画に基づく研究が実施できる。</li> <li>研究結果を論文化し、公聴会で発表できる。</li> <li>修士論文審査会で論文審査を受けることができる。</li> <li>論文審査の結果に基づき追加修正し、決められた期日までに論文を提出できる</li> </ol>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	目標時間
第 1 ～ 50 回	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究計画書の作成 <ol style="list-style-type: none"> <li>臨床課題と研究課題の明確化</li> <li>研究課題に関する文献レビュー</li> <li>研究意義の明確化</li> <li>研究方法の選択</li> <li>データ分析方法の決定</li> <li>研究計画書の作成</li> </ol> </li> </ol> <p>【演習】(学生および学生の主・副論文指導者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究の実施に伴う大枠の実施計画の確認</li> <li>研究課題に関連した先行研究等の文献検討</li> <li>研究課題の主要概念の分析</li> <li>概念分析を基盤とした研究計画の立案</li> <li>研究計画書作成</li> </ul>		必要な内容について主・副指導教員と密な連絡を取りつつ計画的に研究を進め、適時研究計画書および研究に当たっての準備を行えるよう、計画的に時間配分を行うこと。	修士論文作成に向け、計画的に自己の時間を管理し進めること。
第 51 ～ 70 回	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究計画書の中間発表の実施と質疑応答</li> <li>研究計画書の修正 / 追加</li> <li>研究倫理審査の受診</li> </ol> <p>【演習】(学生および学生の主・副論文指導者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画発表における意見 / 質問等に対応した研究計画の修正 / 追加</li> <li>研究倫理審査の結果を受けての修正 / 追加を経て倫理審査委員会の承認を得る(承認番号の確認)</li> </ul>		研究計画書、および倫理審査委員会への審査依頼、修士論文の提出など提出期限を厳守できるよう自ら計画的に時間を管理すること。	合計 90時間
第 71 ～ 130 回	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究計画に基づく研究の実施 <ol style="list-style-type: none"> <li>データ収集</li> <li>データ分析</li> <li>分析結果の考察</li> </ol> </li> </ol> <p>【演習】(学生および学生の主および副論文指導者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究対象者の適切性(倫理の視点も含む)の検討・確認と研究参加の依頼・承諾確認</li> <li>計画に従ったデータ収集</li> <li>データの適切な分析の実施</li> <li>分析結果から研究目的に照らした結果の抽出</li> </ul>		研究実施に関しては、研究対象の安全を図るとともに、倫理に基づく研究行動がとれるよう、研究対象施設および研究対象者との綿密な連絡を取ること。	
第 131 ～ 160 回	<ol style="list-style-type: none"> <li>修士論文作成と検討 <ol style="list-style-type: none"> <li>研究実施に基づく研究結果の論文化</li> <li>公聴会に向けた発表内容の検討と精選</li> </ol> </li> </ol> <p>【演習】(学生および学生の主・副論文指導者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文の構成および内容の検討</li> <li>公聴会で使用するパワーポイントの作成および内容の検討</li> </ul>			

第 161 ～ 180 回	7. 修士論文公聴会における発表 ①論文内容の発表と質疑応答 ②審査委員会での評価を受けての論文内容の修正・追加 (指定締め切り日時厳守の論文提出) 【演習】(学生および学生の主・副論文指導者) ・公聴会での発表と質問への対応の仕方 ・公聴会における質疑内容の論文への追加 / 修正 ・審査委員会からの論文コメントへの対応	公聴会においては、より良い論文となるよう真摯な態度で臨み、適切な対応ができるよう十分な準備を行うこと。修士論文作成に向け、計画的に自己の時間を管理し進めること。	
学修評価の方法 基準 (割合 %)	公聴会及び修士論文に対する評価基準に則った評価 (学生便覧参照)		
フィードバックの方法	研究実施過程でその都度主および副指導教員より研究論文の内容に関するフィードバックを行う。さらに公聴会を通して、論文のブラッシュアップを図る。		
他の授業との 関連	共通専門科目・共通基礎科目・専門科目で研究課題にかかわるすべての科目が関連する。		
テキスト	開講時提示する。		
参考図書	研究方法論をはじめ、研究課題にかかわる各科目で用いた図書等を十分に活用するとともに必要な専門書を自ら入手すること。		
履修上の留意点	研究計画の妥当性、実施の妥当性を常に問いつつ、倫理観を重視しながら研究の実施と論文の作成を行うこと。		
オフィスアワー	在室時は調整し対応します。不在時は主および副指導教員のメールに連絡してください。		
実務経験のある教員	江川 隆子 (看護師)、小平 京子 (看護師)、奥津 文子 (看護師)、松村 恵子 (助産師) 黒江 ゆり子 (看護師)、神谷 千鶴 (看護師)、笠岡 和子 (看護師)、下舞 紀美代 (看護師) 箕浦 洋子 (看護師)、伊木 智子 (保健師・看護師)、古川 秀敏 (保健師・看護師) 大谷 益子 (専門技術指導者)		



〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 1456-4  
TEL 0799-60-1200 FAX 0799-60-1201  
E-mail [kyoumu@kki.ac.jp](mailto:kyoumu@kki.ac.jp)

